

キャリア教育の充実について

キャリア教育に関する経緯と課題及び検討の方向性①

1. キャリア教育に関わるこれまでの経緯等

- H23中教審答申（※1）で「キャリア教育」の定義等を整理。（※1）今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（答申）
 - ✓ キャリア教育の定義＝「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」
 - ✓ 「社会人・職業人に必要とされる基礎的な能力」と、「学校教育で育成している能力」との接点を踏まえて具体化された「基礎的・汎用的能力（※2）」の育成をキャリア教育の基本的方向性として位置付け
 - （※2）①人間関係形成・社会形成能力、②自己理解・自己管理能力、③課題対応能力、④キャリアプランニング能力
- 前回改訂では主として以下の改善・充実を実施。
 - ✓ キャリア教育を「学校教育全体で行う」とされていることが、指導の場面を曖昧にしてきたとの反省から、総則に「特別活動を要としつつ各教科等の特質に応じて、キャリア教育の充実を図る」ことを明示。
 - ✓ 特別活動の内容に「一人一人のキャリア形成と自己実現」を位置付け、その際「児童生徒が活動を記録し蓄積する教材等（「キャリア・パスポート」）を活用することを位置付け。
- 近年、進路選択やキャリア観をめぐって大きな状況変化。
 - ✓ 少子化が加速する中、公立高校では、令和6年に2/3の道府県で倍率が1倍未満に低下し、学校の特色化や多様な選抜方法の拡充が課題。
また、大学入試では、令和6年に入学者数が募集定員を下回り、総合型・学校推薦型選抜の割合が50%を超えた。
 - ✓ 令和8年3月の高卒求人倍率が過去最高の4.12倍になる等、高卒就職市場も大きく変化
 - ✓ 生成AIを含むデジタル技術の飛躍的発展により、定型的な業務の自動化が進み、人と同じことができること以上に、独自の視点や発想が重要になってきている。
 - ✓ 労働市場の流動化、中途採用の増加、人生100年時代に伴う職業寿命の長期化、労働力不足などを背景として、学び直しやキャリアチェンジを含むマルチステージの人生が現実化
 - ✓ 将来の夢を持つ18歳の割合は微増。一方、自分の適性や進路選択の基準が分からない高校生が増えている、興味がある学問分野があると答える大学進学希望者が減っている、などの課題が顕在化している。

2. キャリア教育の主な課題

- ① キャリア教育を通して身に付ける能力として「基礎的・汎用的能力」を示したことで、各教科等での学びを社会につなげる指導が進捗した面がある一方、以下の課題
 - ✓ 資質・能力の3つの柱との関係が整理されておらず、各教科等での指導に落とし込みにくいに加え、各教科等とは異なる資質・能力との受け止めが負担感につながっている
 - ✓ 「課題対応能力」等、基礎的・汎用的能力に幅広い概念が含まれており、キャリア教育という名称とのギャップも大きく、何がキャリア教育か分かりにくい。概念の幅広さとも相まって、学習指導要領解説に「キャリア教育」の要素が散在しており、活動の重点や目指す姿が不明確
- ② 現行指導要領において、特別活動を「要」としたキャリア教育の充実を明示したことでキャリア教育の推進につながった一方、以下の課題
 - ✓ キャリア教育に関する指導の内容や方法が分からない、特に高校ではキャリア教育について、ホームルーム活動と並んで総合でキャリア教育を実施しているとのデータもある中で、キャリア教育における総合や各教科等の関係や役割が必ずしも明確ではないとの指摘
- ③ AIを含むデジタル技術の飛躍的发展による定型的な業務の自動化や、労働市場や雇用の在り方の急速な変化とも相まって、自らの人生を舵取りする力が一層重要となる中、一方、以下の課題
 - ✓ 諸外国と比べ、「働くこと」や、主体的な進路選択についての意欲が低い
 - ✓ 地域や産業界等との連携を図り、就業体験活動の機会を積極的に設けることとされているが、学校の負担や、産業界とのマッチング機会の不足等に課題がある
- ④ 児童生徒が活動を記録し蓄積する観点から導入した「キャリア・パスポート」について、例示資料や手法が示されたことで、中長期的な振り返りや、見通しを持つ活動の好事例が生まれた一方で、以下の課題
 - ✓ 例示資料に基づくワークシートの作成や、決められた方式での教材の蓄積のみに主眼が置かれている面がある
 - ✓ ワークシートを何のために作成しているのかについて理解が広がっておらず、形骸化している
 - ✓ 紙での活用が基本であり、社会状況の変化に対応できていない
 - ✓ とりわけ学校間の引継ぎが負担感につながっている

3. 検討の方向性

- ① 上記の課題や「分かりやすく、使いやすい学習指導要領」への改善を図るとの大方針を踏まえ、従前の方向性との整合性に配慮しつつ、キャリア教育を通じて育みたい力や各教科等の役割分担について、全体像を分かりやすく示してはどうか。
- ② 「キャリア・パスポート」については、実行可能性や学校現場の負担に配慮した上で、当初掲げた理念が実現できるようにする方向で、見直しを検討してはどうか。



具体的な論点①

① 「学びに向かう力・人間性等」を踏まえたキャリア教育を通じて育む力【補足イメージ1】

- 「基礎的・汎用的能力」について、資質・能力の3つの柱との関係が整理されておらず、教科等での指導に落とし込みにくいといった指摘や、「基礎的・汎用的能力」の各要素は、「学びに向かう力・人間性等」の新たな整理と重なりが多いこと等を踏まえ、「学びに向かう力・人間性等」の各要素に基礎的・汎用的能力を照らし合わせて「育む力の要素」を例示することで、各教科等を通じて育む資質・能力と整合させた整理が可能になるとともに、学校現場にとってより分かり易い形で伝えることができる可能性について、どう考えるか。
- その上で、幅広い概念が多岐にわたる「力」として列挙されている「基礎的・汎用的能力」については、社会状況の変化等も踏まえつつ、学習指導要領が掲げる資質・能力とのシンプルで分かり易い整理を含め、今後、その在り方を検討することとしてはどうか。

「基礎的・汎用的能力」及び「学びに向かう力・人間性等」の整理を踏まえた、キャリア教育を通じて育む力の要素の例：

- ① 自己の役割を踏まえた多様な他者との対話・協働
- ② 社会との関わりでの「好き」や「得意」の発見・伸長
- ③ 社会や職業とのつながりを意識した学びの主体的な自己調整
- ④ 豊かな人生やよりよい社会に向けたキャリアの主体的な形成

(※) 各教科で育む資質能力との関係を捉え易くする観点から上記の要素を示しているが、キャリア教育で育む力としては、知識・技能や思考力・判断力・表現力も観念できることに留意

② 各教科等におけるキャリア教育の全体像の再整理等【補足イメージ2】

- 総合的な探究の時間にキャリア教育を実施しているとの学校現場の受け止めがあることや、各教科等で育む資質・能力について「広く社会において、いつ、どのような文脈で活用できるのか」を共通で重視する議論がされていること等を勘案し、以下のとおり、役割分担を含むキャリア教育の全体像を整理してはどうか。
 - **特別活動**：各教科・科目等における学習の見通しを立て、学んだことを振り返りながら、新たな学習への意欲につなげたり、将来の生き方を考えたりするキャリア教育の「要」の役割（学級活動、児童会・生徒会活動や学校行事等を通じて実践する役割も担う）
 - **各教科等**：探究的な要素を持つ学びの充実や社会や職業とのつながりを意識した学びの一層の充実、学びに向かう力・人間性等の育成等を通じてキャリア教育の実践の場としての役割（「好きや得意」の「芽」を育てることを含む）
 - 特に総合：実社会との関わりの中で、自己の興味・関心に基づく課題を探究することを通じて、キャリア教育を実践
 - 特に家庭科：結婚や子育てその他ライフスタイルも含めた生涯設計について、職業選択やワークライフバランス等との関連を図りながら、主体的に考え見通しを持たせる、ライフキャリアに関わる教育を実践
 - 特に社会：子供主体の実践的な活動や外部機関等との連携を含む主権者教育を実践
- その上で、各学校におけるキャリア教育の推進を支える条件整備として、以下の取組を併せて推進することとしてはどうか。
 - 学校と地域や産業界等との連携を一層推進するための仕組みづくりの推進
 - 自らのキャリアを主体的に考えるために、様々な大人や先輩との出会いや経験が重要であることを踏まえ、学校運営協議会や企業、大学等と連携してキャリア教育の充実に取り組む好事例・留意事項の提供、実践的な教員研修等の充実



具体的な論点②

③ 「キャリア・パスポート」のねらいの具現化に向けた見直し等 【補足イメージ3】

- 例示資料が、キャリア・パスポートの認知・普及に寄与した一方で、例示資料に基づくワークシートの作成や、決められた方式での教材の蓄積のみに主眼が置かれている面があり、何のために作成しているのか、その活用目的についての理解が広がっておらず、手段が目的化し、形骸化につながっているとの指摘もあり、本来のキャリア教育に求められている見直し・振り返り活動に、十分に繋げていくことが重要。
- 更に、以下のような状況も踏まえる必要。
 - ✓ デジタル学習基盤の整備により、各教科等を含めた様々な活動の記録や振り返りの記録を、多様な形式で保存したり、活用したりすることが可能となる中、「キャリア・パスポート」という特定の手段に依拠する必然性が薄まってきていること
 - ✓ 「主体的な社会参画に関わる教育の改善」を今次改訂の論点の1つとしていることとも相まって、各教科等で検討中の「高次の資質・能力」において、「個別の資質・能力を学ぶことの意義」や、「それを広く社会において、いつ、どのような文脈で活用することができるのか」を重視するなど、社会やキャリアとのつながりを意識した指導を各教科等においても一層重視することとしていること
- 以上を踏まえ、以下の方向性で、キャリア・パスポートの見直しを図ることとしてはどうか、
 - ① 児童生徒が活動を記録し蓄積する教材等に関しては、現場の創意工夫を生かしたキャリア教育の実践が行われるよう、現行の事務連絡に基づく「例示資料」を廃止し、「見直し・振り返り」に資する現場の実態に合った多様な取組へと進化させる。各学校における創意工夫の発揮を促す方向を明確化し、その上で、各学校が、取組の検討の参考とできるような、一定の簡素化された取り組み例などは、指導資料などにより示していくことを検討。
 - ② その際、各学校のキャリア教育が一層推進するよう、総合や、各教科のパフォーマンス課題の成果などについて、キャリア教育の観点から、特別活動においてデジタル学習基盤を効果的に活用しつつ俯瞰的に振り返るような発展的な取り組みについて、解説などで整理することとする。
 - ③ その上で、本来の目的である「学習状況やキャリア形成を見通したり、振り返ったりする」というメッセージをシンプルに発信し、蓄積については、クラウド上などでの個人管理を基本としていく。学校の事務負担などにも鑑み、蓄積物の学校による引継ぎは求めないこととし、児童生徒が個人で必要な資料を管理することとした上で、学校種を越えた見直し、振り返る活動につなぐ。

「学びに向かう力・人間性等」を踏まえたキャリア教育を通じて育む力

- 「基礎的・汎用的能力」の各要素は、「学びに向かう力・人間性等」の新たな整理と重なりが多いことを踏まえ、**「学びに向かう力・人間性等」の各要素に基礎的・汎用的能力を照らし合わせて「育む力の要素」を例示**することで、各教科等を通じて育む資質・能力と整合させた整理が可能になるとともに、学校現場にとって**より分かり易い形で伝えることができる可能性**について、どう考えるか。
- その上で、幅広い概念が多岐にわたる「力」として列挙されている「基礎的・汎用的能力」については、社会状況の変化等も踏まえつつ、学習指導要領が掲げる資質・能力とのシンプルで分かり易い整理を含め、今後、その在り方を検討することとしてはどうか。

【キャリア教育で涵養される4要素】

＜基礎的・汎用的能力＞

1. 人間関係形成・社会形成能力

多様な他者の考えや立場を理解し、相手の意見を聴いて、自分の考えを正確に伝えることができるとともに、自分の置かれている状況を受け止め、役割を果たしつつ他者と協力・協働して社会に参画し、今後の社会を積極的に形成することができる力 (①)

2. 自己理解・自己管理能力

自分が「できること」「意義を感じること」「したいこと」について、社会との相互関係を保ちつつ、今後の自分自身の可能性を含めた肯定的な理解に基づき主体的に行動する (②) と同時に、自らの思考や感情を律し、今後の成長のために進んで学ぼうとする力 (③)

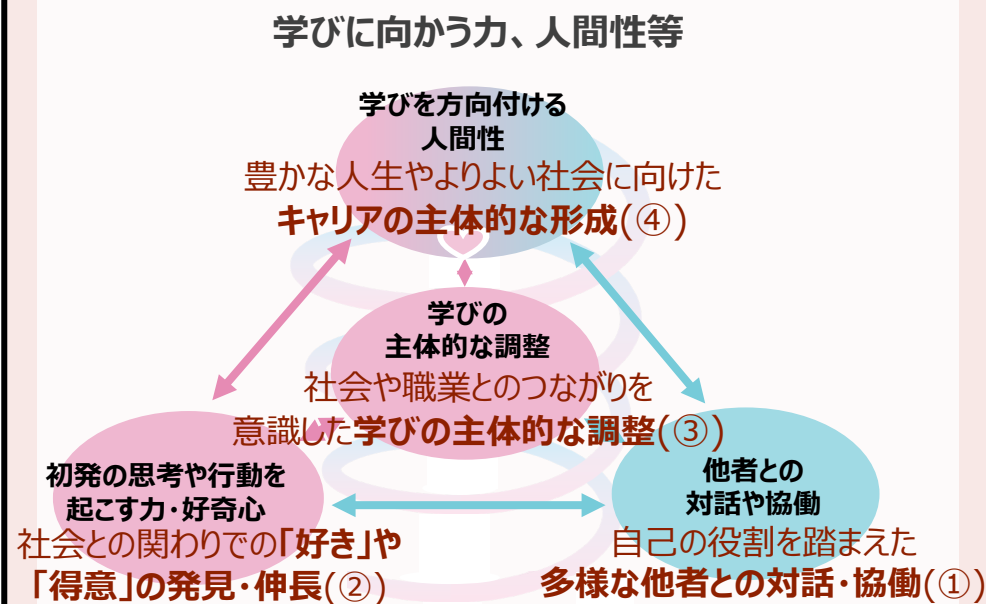
3. 課題対応能力

仕事をする上での様々な課題を発見・分析し、適切な計画を立ててその課題を処理し、解決することができる力 (③)

4. キャリアプランニング能力

「働くこと」の意義を理解し、自らが果たすべき様々な立場や役割との関連を踏まえて「働くこと」を位置づけ、多様な生き方に関する様々な情報を適切に取捨選択・活用しながら、自ら主体的に判断してキャリアを形成していく力 (④)

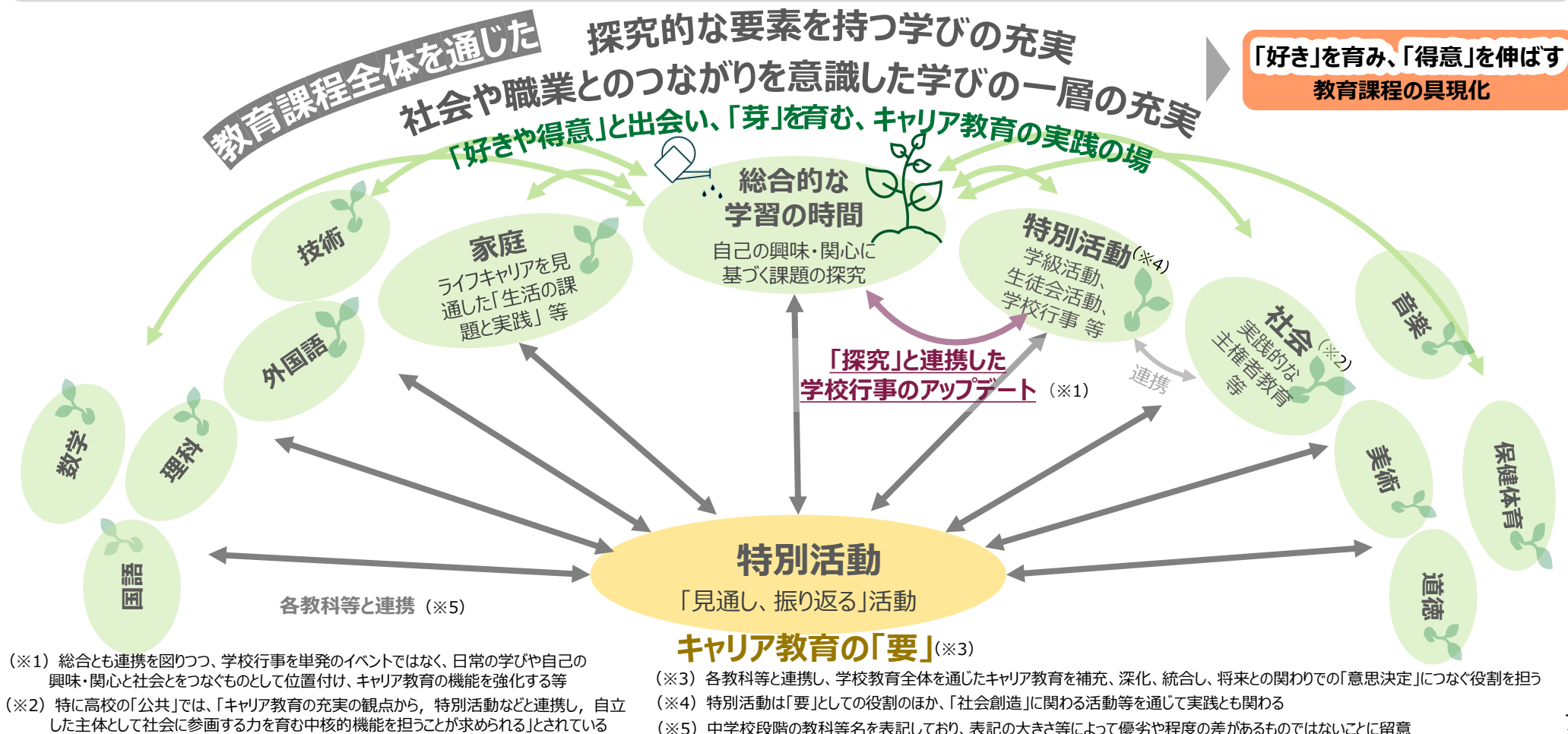
基礎的・汎用的能力に照らした キャリア教育を通じて育む力の要素の例



※ 各教科で育む資質能力との関係を捉え易くする観点から上記の要素を示しているが、キャリア教育で育む力としては、知識・技能や思考力・判断力・表現力も観念できることに留意 6

● **総合的な探究の時間にキャリア教育を実施**しているとの学校現場の受け止めがあることや、**各教科等**で育む資質・能力について「**広く社会において、いつ、どのような文脈で活用できるのか**」を**共通で重視**する議論がされていること等を勘案し、以下のとおり、役割分担を含むキャリア教育の全体像を整理してはどうか。

- **特別活動**：各教科・科目等における学習の見通しを立て、学んだことを振り返りながら、新たな学習への意欲につなげたり、将来の生き方を考えたりする**キャリア教育の「要」**の役割（学級活動、児童会・生徒会活動や学校行事等を通じて**実践**する役割も担う）
- **各教科等**：探究的な要素を持つ学びの充実や社会や職業とのつながりを意識した学びの一層の充実、学びに向かう力・人間性等の育成等を通じて**キャリア教育の実践の場**としての役割（「**好きや得意**」の「**芽**」を育てることを含む）
 - **特に総合**：実社会との関わりの中で、**自己の興味・関心に基づく課題を探究**することを通じて、キャリア教育を実践
 - **特に家庭**：結婚や子育てその他**ライフスタイルも含めた生涯設計**について、職業選択やワークライフバランス等との関連を図りながら、主体的に考え見通しを持たせる、**ライフキャリアに関わる教育**を実践
 - **特に社会**：子供主体の実践的な活動や外部機関等との連携を含む**主権者教育**を実践（※）これらは例示であり、各教科等の特質に応じて、多様なキャリア教育の実践の在り方があることに留意。



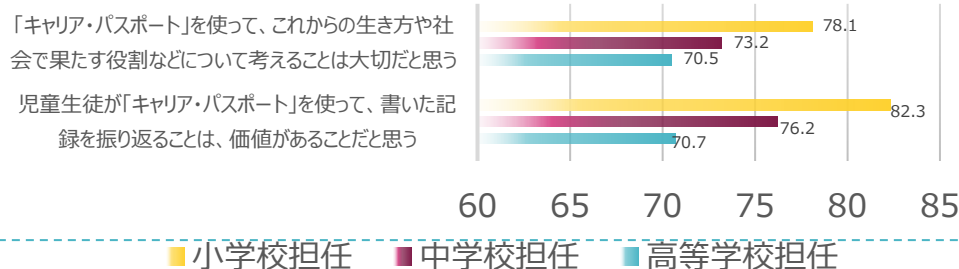
現行

小学校学習指導要領 特別活動 学級活動の内容の取扱い (中学校、高等学校、特別支援学校においても、概ね同様) …指導に当たっては、学校、家庭、及び地域における学習や生活の見通しを立て、学んだことを振り返りながら、新たな学習や生活への意欲につなげたり、将来の生き方を考えたりする活動を行うこと。その際、児童が活動を記録し蓄積する教材等を活用すること。

「キャリア・パスポート」とは H31事務連絡において、学習指導要領に示された「児童生徒が活動を記録し蓄積する教材等」を「キャリア・パスポート」と称することとした上で、「キャリア・パスポート」の定義を「児童生徒が、小学校から高等学校までのキャリア教育に関わる諸活動について、特別活動の学級活動及びホームルーム活動を中心として、各教科等と往還し、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり振り返ったりしながら、自身の変容や成長を自己評価できるよう工夫されたポートフォリオ」と整理。その際、学校等における「キャリア・パスポート」作成の負担軽減の一助とするため、様式例(例示資料)を示し、これを参考としつつ、各地域・学校の実情に応じた教材の作成等を促してきたところ。

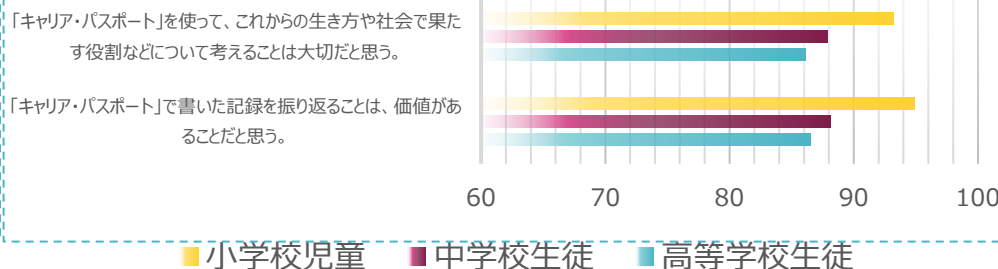
教師からは、一定の評価(※)

学級担任



児童生徒は、見通し振り返る活動に価値を見出している(※)

児童生徒



(※令和7年度キャリア教育に関する総合的研究 第一次報告書の図Ⅲ-3-12、Ⅲ-6-28、Ⅲ-9-40より事務局にて作成)

しかしながら 次のような課題

例示資料が、キャリア・パスポートの認知・普及に寄与した一方で、例示資料に基づくワークシートの作成や、決められた方式での教材の蓄積のみに主眼が置かれている面があり、何のために作成しているのか、その活用目的についての理解が広がっておらず、手段が目的化し、形骸化につながっているとの指摘。

⇒本来のキャリア教育に求められている見通し・振り返り活動に、十分に繋げていくことが重要。

また、以下のような 状況を踏まえる必要

- **デジタル学習基盤の整備**により、各教科等を含めた様々な活動の記録や振り返りの記録を、多様な形式で保存したり、活用したりすることが可能となる中、「キャリア・パスポート」という**特定の手段に依拠する必然性**が薄まってきていること
- 「**主体的な社会参画に関わる教育の改善**」を今次改訂の論点の1つとしていることとも相まって、各教科等で検討中の「高次の資質・能力」において、「個別の資質・能力を学ぶことの意義」や、「それを広く社会において、いつ、どのような文脈で活用することができるのか」を重視するなど、社会やキャリアとのつながりを意識した指導を各教科等においても一層重視することとしていること

現行

小学校学習指導要領 特別活動 学級活動の内容の取扱い（中学校、高等学校、特別支援学校においても、概ね同様）
…指導に当たっては、学校、家庭、及び地域における学習や生活の見通しを立て、学んだことを振り返りながら、新たな学習や生活への意欲につなげたり、将来の生き方を考えたりする活動を行うこと。その際、児童が活動を記録し蓄積する教材等を活用すること。

見直し

形式にとらわれた「キャリア・パスポート」の活動から脱却。「キャリア・パスポート」が本来目指した学習状況やキャリア形成を見通したり、振り返ったりする活動に立ち返り、特定の手段に限定することなく、現場の創意工夫を発揮する形に進化。

【具体的な変更等の方向性】

- ① 児童生徒が活動を記録し蓄積する教材等に関しては、現場の創意工夫を生かしたキャリア教育の実践が行われるよう、現行の事務連絡に基づく「例示資料」を廃止し、「見通し・振り返り」に資する現場の実態に合った多様な取組へと進化させる。各学校における創意工夫の発揮を促す方向を明確化し、その上で、各学校が、取組の検討の参考とできるような、一定の簡素化された多様な取り組み例などは、指導資料などにより示していくことを検討。
- ② その際、各学校のキャリア教育が一層推進するよう、総合や、各教科のパフォーマンス課題の成果などについて、キャリア教育の観点から、特別活動においてデジタル学習基盤を効果的に活用しつつ俯瞰的に振り返るような発展的な取り組みについて解説などで整理することとする。
- ③ その上で、本来の目的である「学習状況やキャリア形成を見通したり、振り返ったりする」というメッセージをシンプルに発信。デジタルを含む多様な取組を想定する中、紙での蓄積や引継ぎが難しくなることや、学校の負担感も踏まえ、蓄積や引継ぎについては、クラウド上などでの個人管理で行うことを基本とし、学校間の引継ぎは求めないこととした上で、学校種を越えた見通し、振り返る活動につなぐ。

※系統的なキャリア教育実施の好事例等については、別途検討を深める。

參考資料

「主体的・対話的で深い学び」の実現を通じた

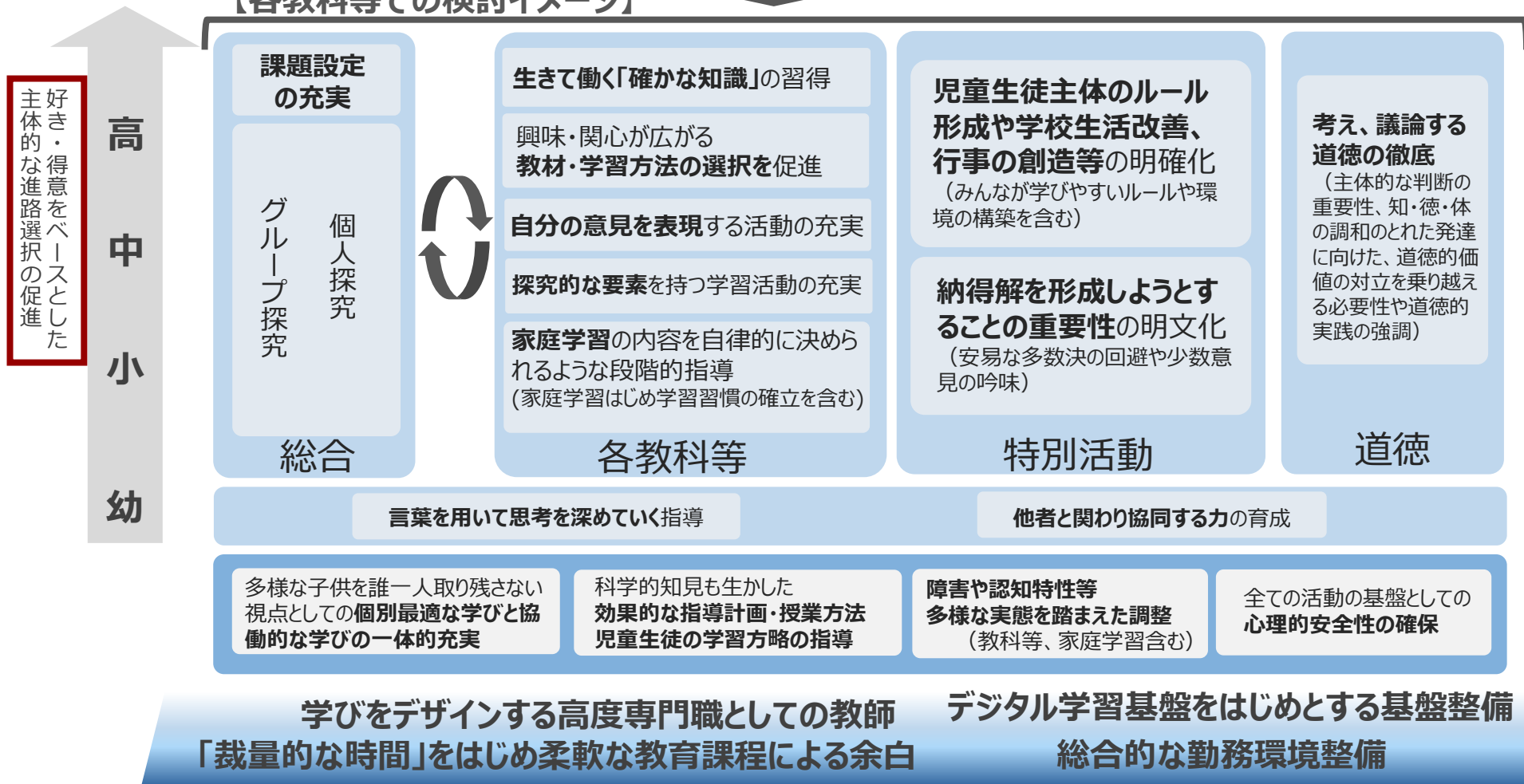
自らの人生を舵取りする力と**民主的で持続可能な社会の創り手**育成（今後の検討イメージ）

「好き」を育み、「得意」を伸ばす
（興味・関心）

×

**当事者意識を持って、自分の意見を
形成し、対話と合意ができる**

【各教科等での検討イメージ】



「高次の資質・能力」を検討する上でのチェックポイント（案）

【A 教科等の本質的意義の中核に照らした重要性の観点】

- ・目標の達成に資する上で重要であるとともに、各教科等の本質的意義の中核（「見方・考え方」）に照らし適切なものであるといえるか

【B 資質・能力の深まりを示す観点】

- ・要素となる個別の資質・能力の「深まり」を示す事ができているか。具体的には、内容のまとまりを単に要約した「見出し」に留まるのではなく、個別の資質・能力が児童生徒の中で相互に関連付けられて、統合的に獲得された際の姿を示すことができているか
- ・要素となる個別の資質・能力を学ぶことの意義（※）や、それを広く社会において、いつ、どのような文脈で活用することができるのか、を教師がイメージしやすいものとなっているか

（※）学ぶことの「意義」は必ずしも実生活における実用的な側面にとどまらない点に留意

【C 深い学びを実現する単元づくりを助ける観点】

- ・教師が単元構想時に、「知識及び技能の統合的な理解」と、それにぶら下がる個別の「知・技」、「思考力・判断力・表現力等の総合的な発揮」と、それにぶら下がる個別の「思・判・表」とを往還して参照した際、単元を通じて児童生徒が追究する本質的な「問い」を構想する上で参考になるか
- ・教師が単元構想時に、「思考力・判断力・表現力等の総合的な発揮」と、それにぶら下がる個別の「思・判・表」とを往還して参照した際、論述・レポート・発表・作品製作等、単元を通じて児童生徒が資質・能力を統合的に発揮しながら取り組む課題を構想する上で参考になるか

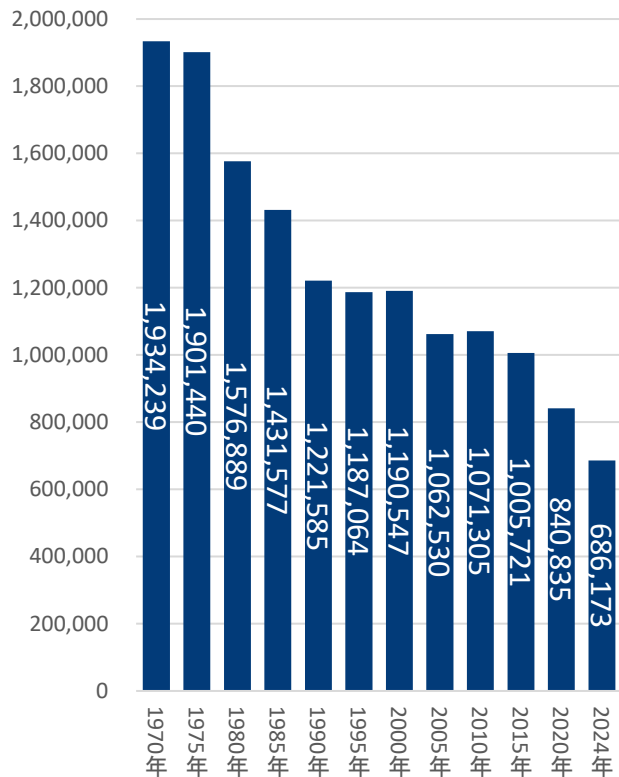
【D 分かりやすさ等の観点】

- ・経験の浅い教師も含めて、一人一人の教師にとって、分かりやすく、使いやすいことに加え、教科等の面白さや魅力が伝わる文言となっているか（学習・指導を通じて、最終的には児童生徒自身が掴むことができる必要があるという点も留意）
- ・学校種・学年等、発達段階に即して妥当なものとなっているか（系統性等の重視により、発達段階に照らし過度に抽象的となっていないか等）

出生数の減少とともに、公立高入試も倍率低下 (2/3の道府県で1倍未満)

出生数

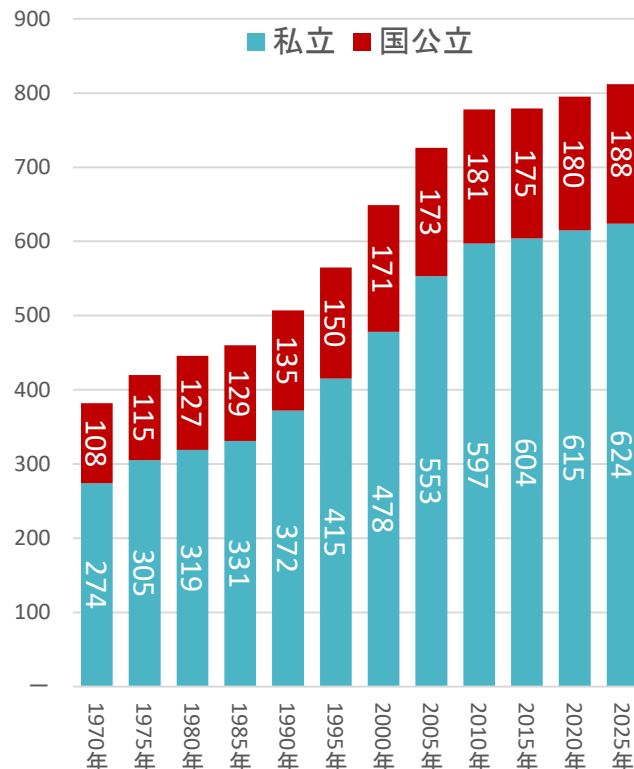
約50年で4割以下



出典) 厚労省「人口動態調査」

大学数

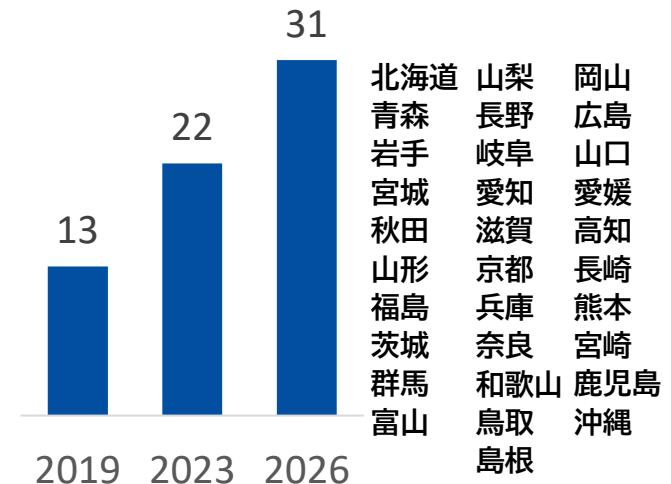
約50年で2倍以上



出典) 文科省「学校基本調査」

高校入試(公立)

倍率1未満の県3分の2

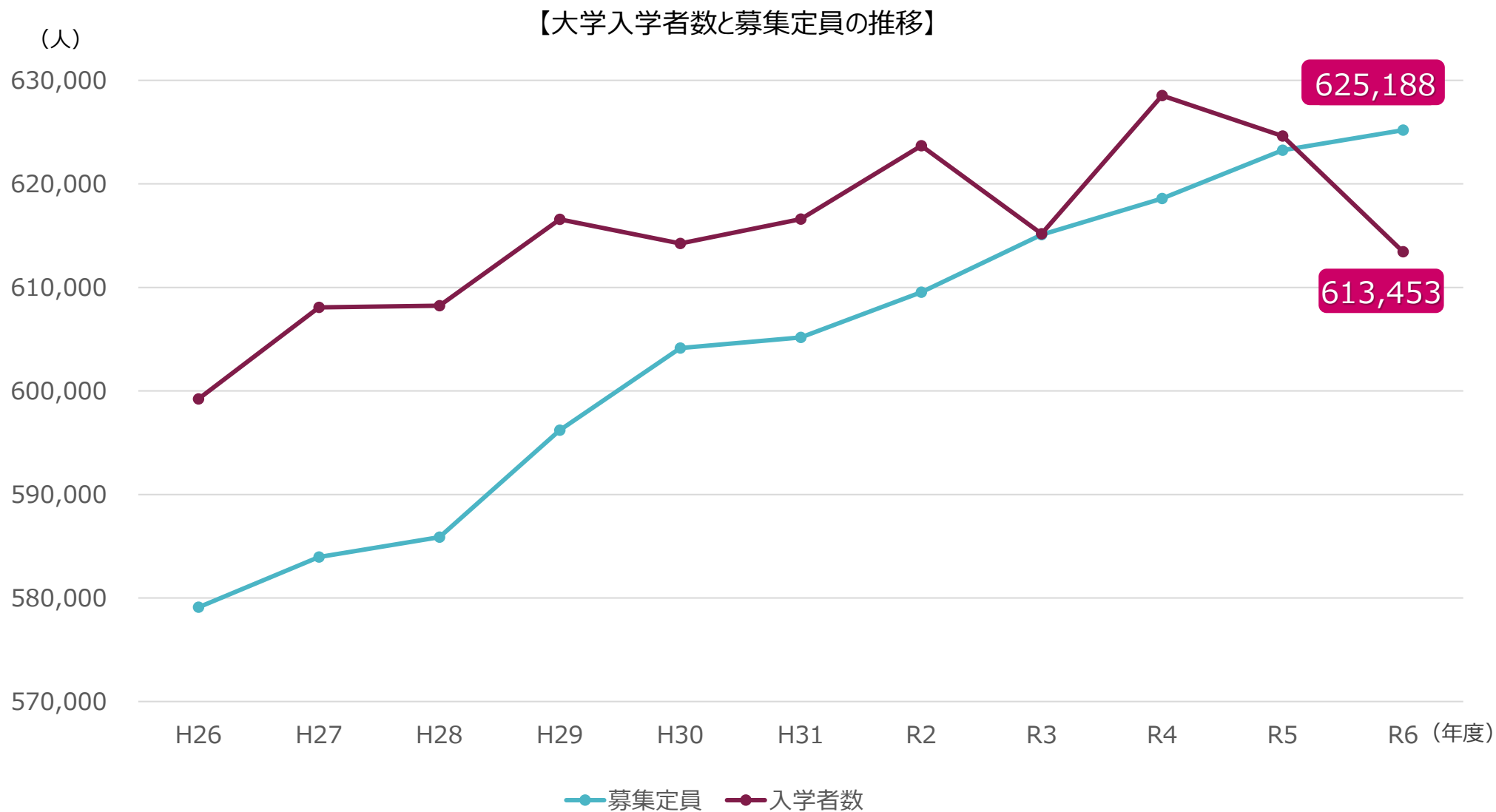


県トップ進学校 倍率(2025)

札幌南高校(北海道)	1.30倍
青森高校(青森県)	1.07倍
仙台第二高校(宮城県)	1.21倍
岡山朝日高校(岡山県)	0.98倍
高松高校(香川県)	1.10倍

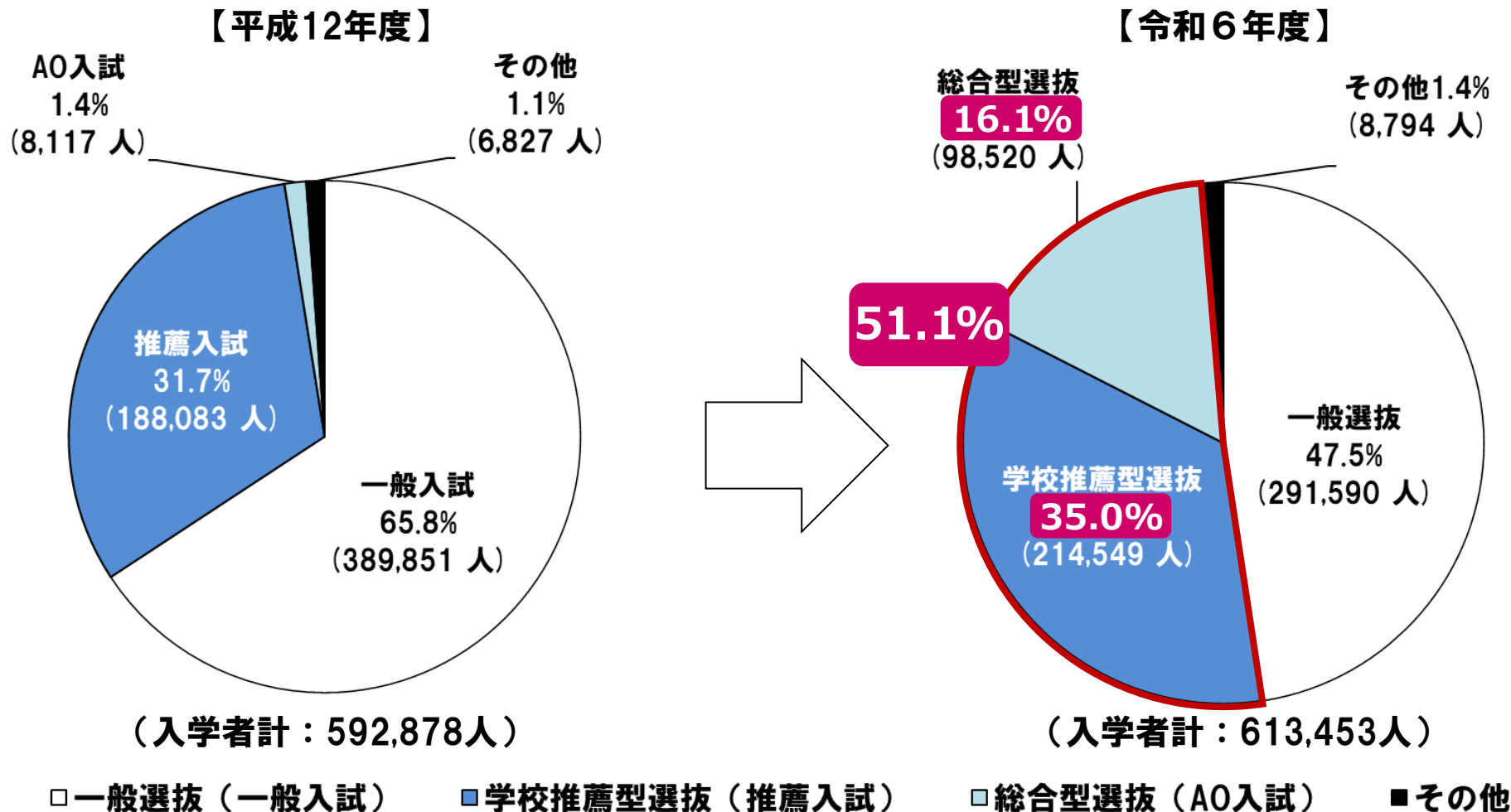
出典) ベネッセコーポレーション調べ

令和6年度に入学人数が募集定員を下回った



大学入試の変化について

平成12年度(AO入試調査開始年度)に比べて、総合型選抜、学校推薦型選抜を経由した入学者が大きく増加しており、入試方法の多様化が進んでいる。



(注) 「その他」(平成12年度)：専門高校・総合学科卒業生入試、社会人入試、帰国子女・中国引揚者等子女入試など
 「その他」(令和6年度)：専門学科・総合学科卒業生選抜、社会人選抜、帰国生徒・中国引揚者等生徒選抜及びその他選抜

令和 8 年 3 月の高卒求人倍率が過去最高の4.12倍に

【高校新卒者】（第 1 表）

- 就職内定率 98.9%で、前年同期比 0.1 ポイントの減
- 就職内定者数 約 12 万人で、同 0.7%の減 (※0.8%の減)
- 求人数 約 49 万 9 千人で、同 0.1%の減
- 求職者数 約 12 万 1 千人で、同 0.6%の減 (※0.7%の減)
- 求人倍率 4.12 倍で、同 0.02 ポイントの上昇 (※0.03 ポイントの上昇)

※ 特別支援学校を含む令和 8 年 3 月末現在の数値と前年同期の数値を比較した前年同期比

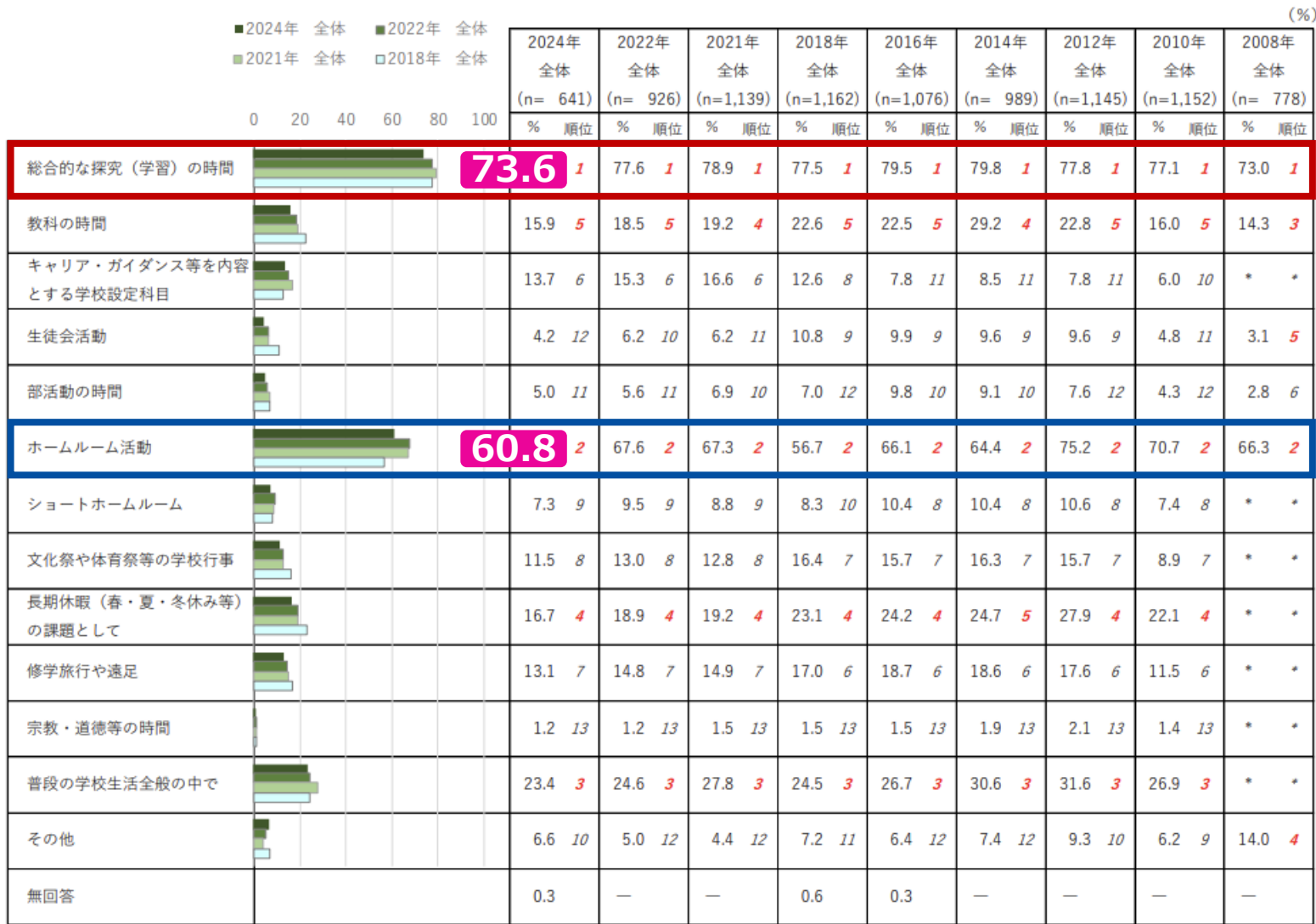
【中学新卒者】（第 2 表）

- 就職内定率 81.9%で、前年同期比 0.7 ポイントの減
- 求人数 888 人で、同 3.4%の減
- 求職者数 348 人で、同 1.2%の増
- 求人倍率 2.55 倍で、同 0.12 ポイントの低下

高校のキャリア教育について、ホームルーム活動と並んで 総合的な探究（学習）の時間で実施しているとの調査結果

■キャリア教育の実施時間（キャリア教育実施校／複数回答）

貴校では、キャリア教育をどの時間で実施していますか。

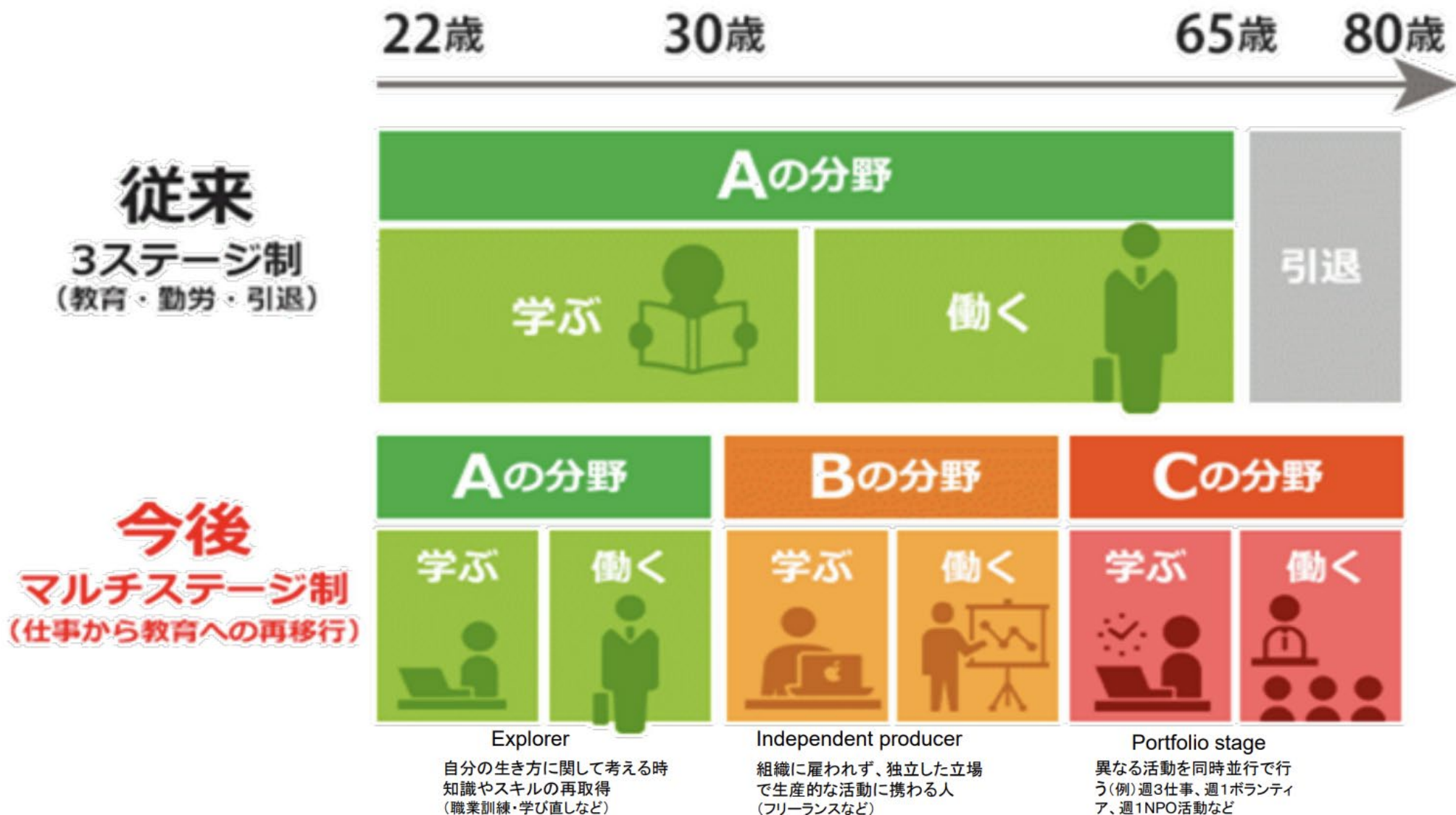


※「*」は該当の項目なし

Q44

変化の激しい時代×人生100年時代

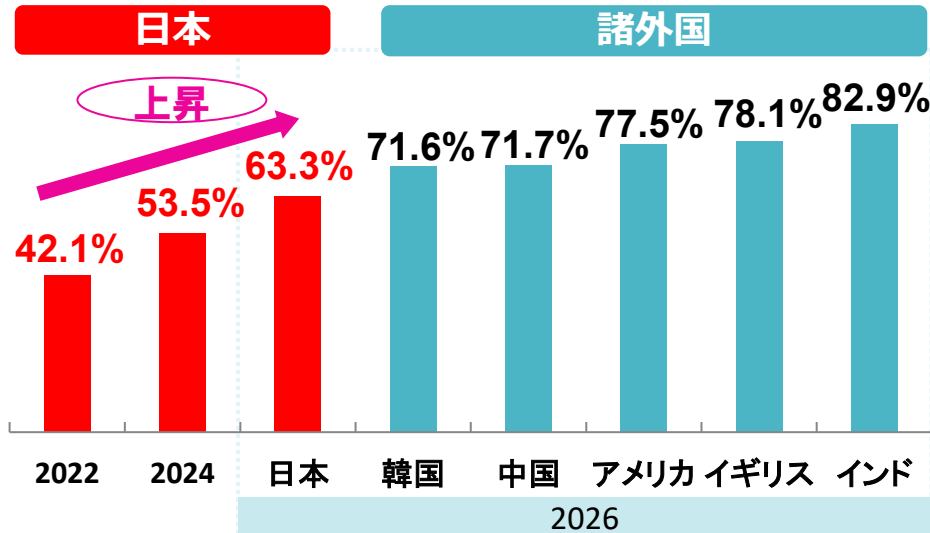
●働く期間が長くなる ●マルチステージの時代へ



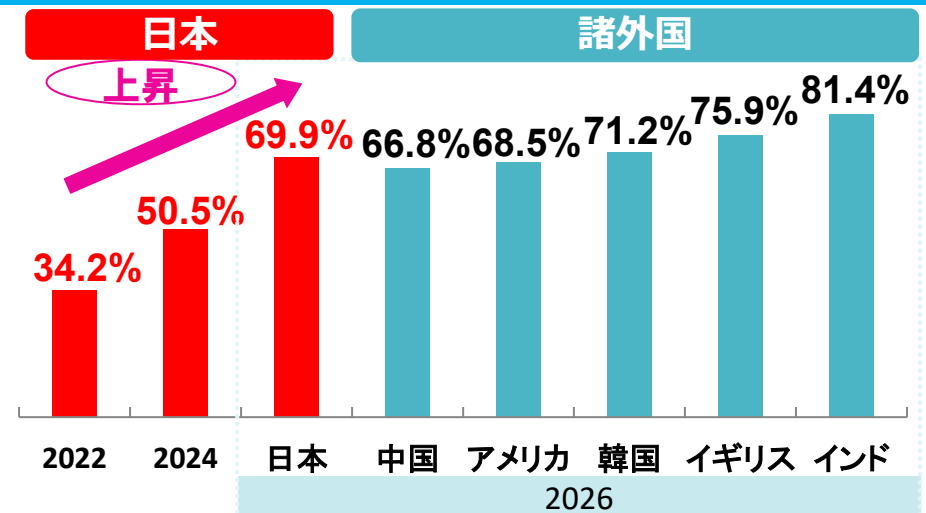
18歳の当事者意識は改善傾向だが、低水準 将来の夢を持つ18歳の割合は横ばい

【出所】日本財団 「18歳意識調査」より作成

①政治や選挙、社会問題について、自分の考えを持っている

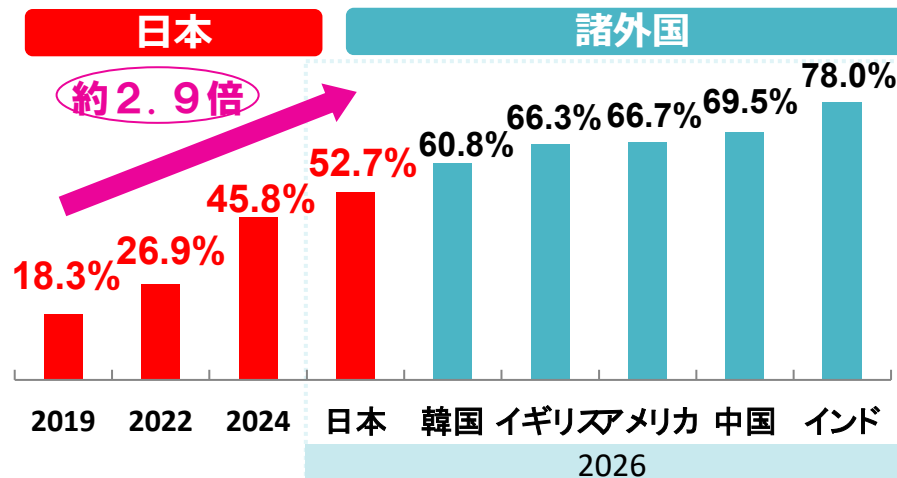


②政治や選挙、社会問題について家族や友人と議論することは大切だと思う



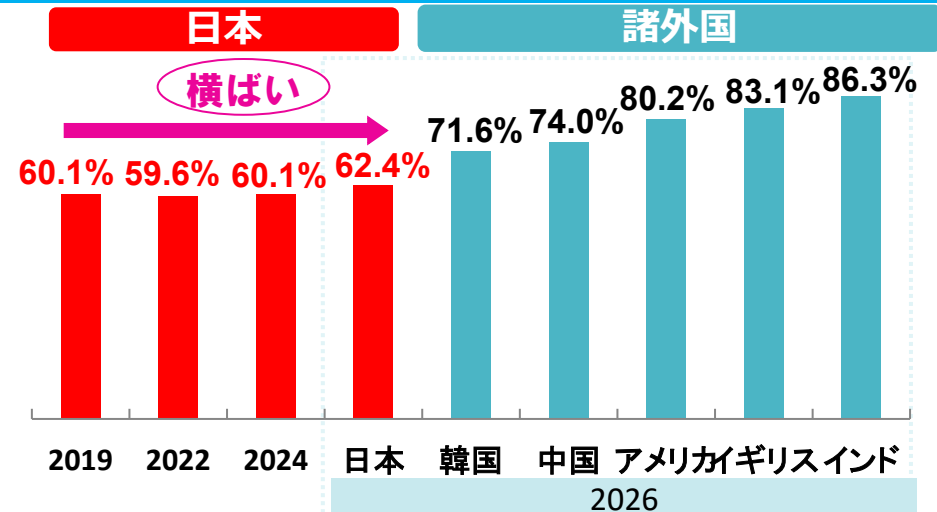
※22年、24年の質問項目は、「政治や選挙、社会問題について家族や友人と議論することがある」であったことに留意

③わたしの行動で国や社会を変えられると思う



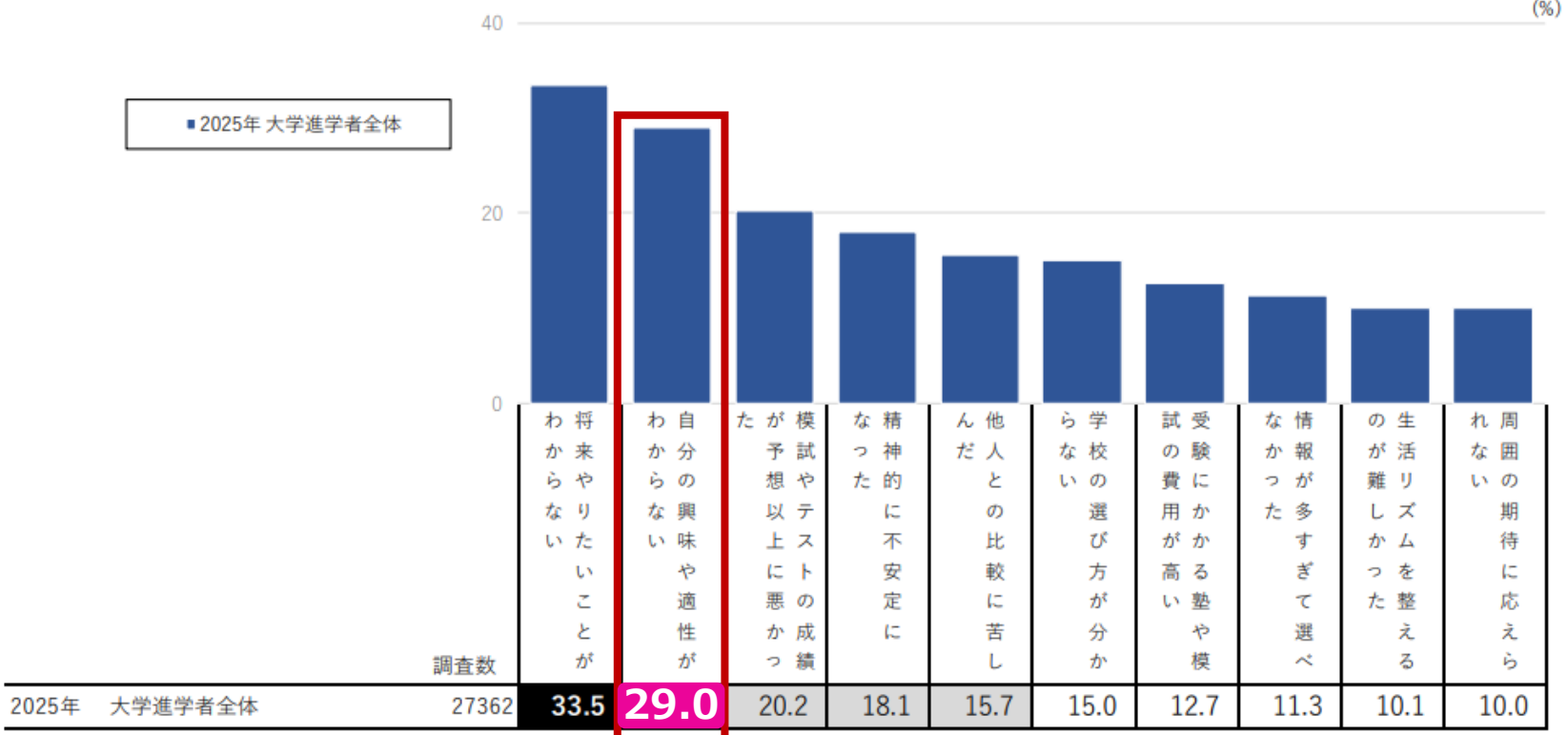
※19年の質問項目は、「自分で国や社会を変えられると思う」、22年、24年の質問項目は「自分の行動で、国や社会を変えられると思う」であったことに留意

④将来の夢を持っている



「自分の興味や適性がわからない」と答える大学進学者はおよそ3割

■ 進路選択について感じた不安や悩み 上位10位（複数回答）



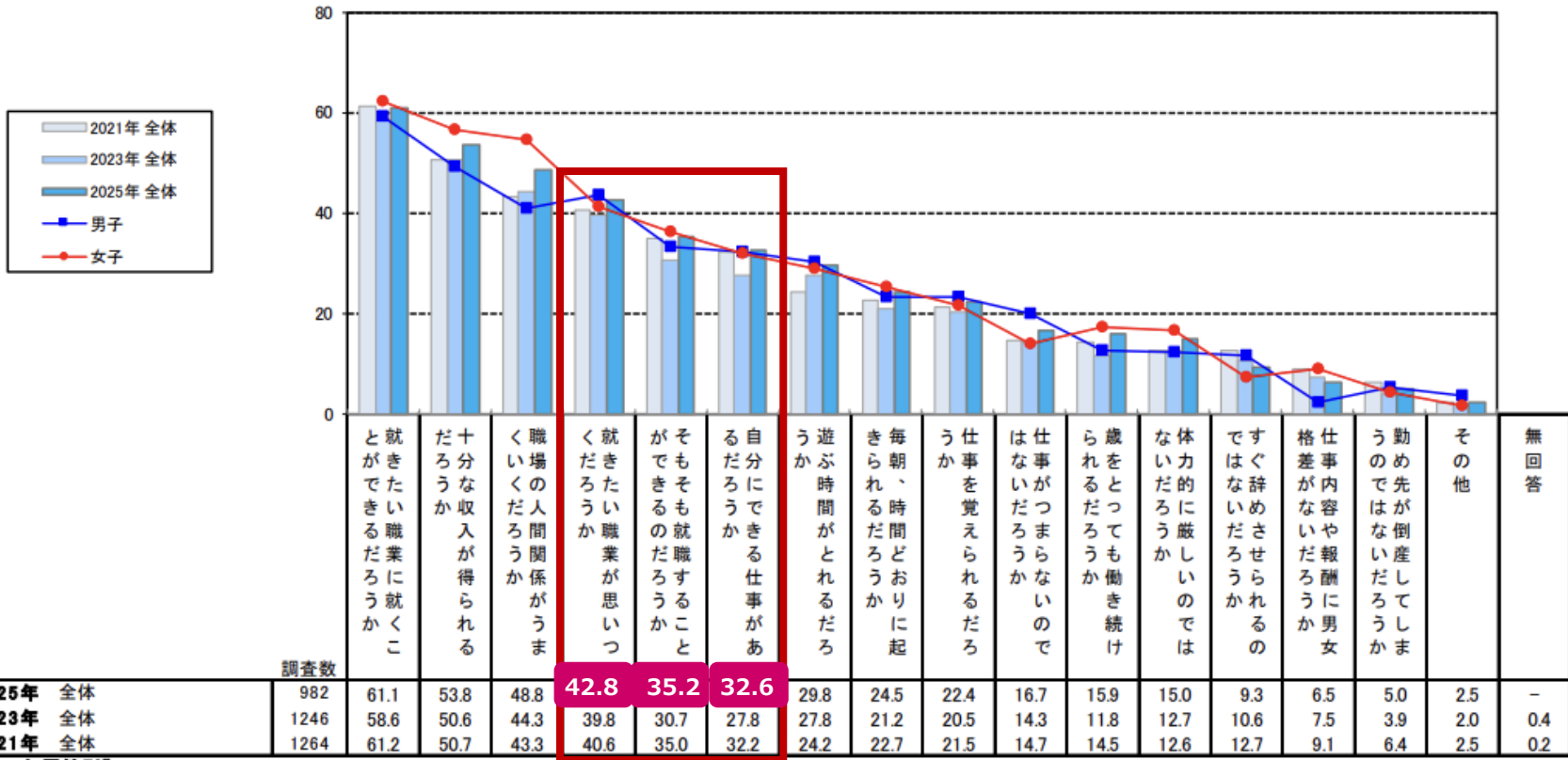
【2025年属性別】												
性別	男子	12707	32.0	28.9	17.3	12.4	10.8	12.5	9.8	9.0	8.8	7.6
	女子	14308	34.8	29.2	22.7	23.2	20.1	17.3	15.1	13.3	11.2	12.2
入試方法別	一般選抜・共通テスト利用・計	12082	33.3	28.8	26.3	21.8	18.9	14.4	17.6	11.5	13.3	13.4
	総合型・学校推薦型選抜・計	14614	33.4	29.3	16.2	15.7	13.6	15.6	9.2	11.2	7.9	7.5

※2025年大学進学者全体において 50.0 最も高い項目
※2025年大学進学者全体より 50.0 5pt以上高い 50.0 2～5番目に高い項目
※2025年大学進学者全体の上位10位までの項目を抜粋 50.0 5pt以上低い

3～4割の高校生が自分の進路選択に不安

【高校生】 将来について気がかりなこと（気がかりが「ある」／複数回答）

(%)



※今回調査の「全体」の降順ソート
※今回調査の「全体」と比較して ■10pt以上高い ■5pt以上高い ■10pt以上低い

K_Q15-1

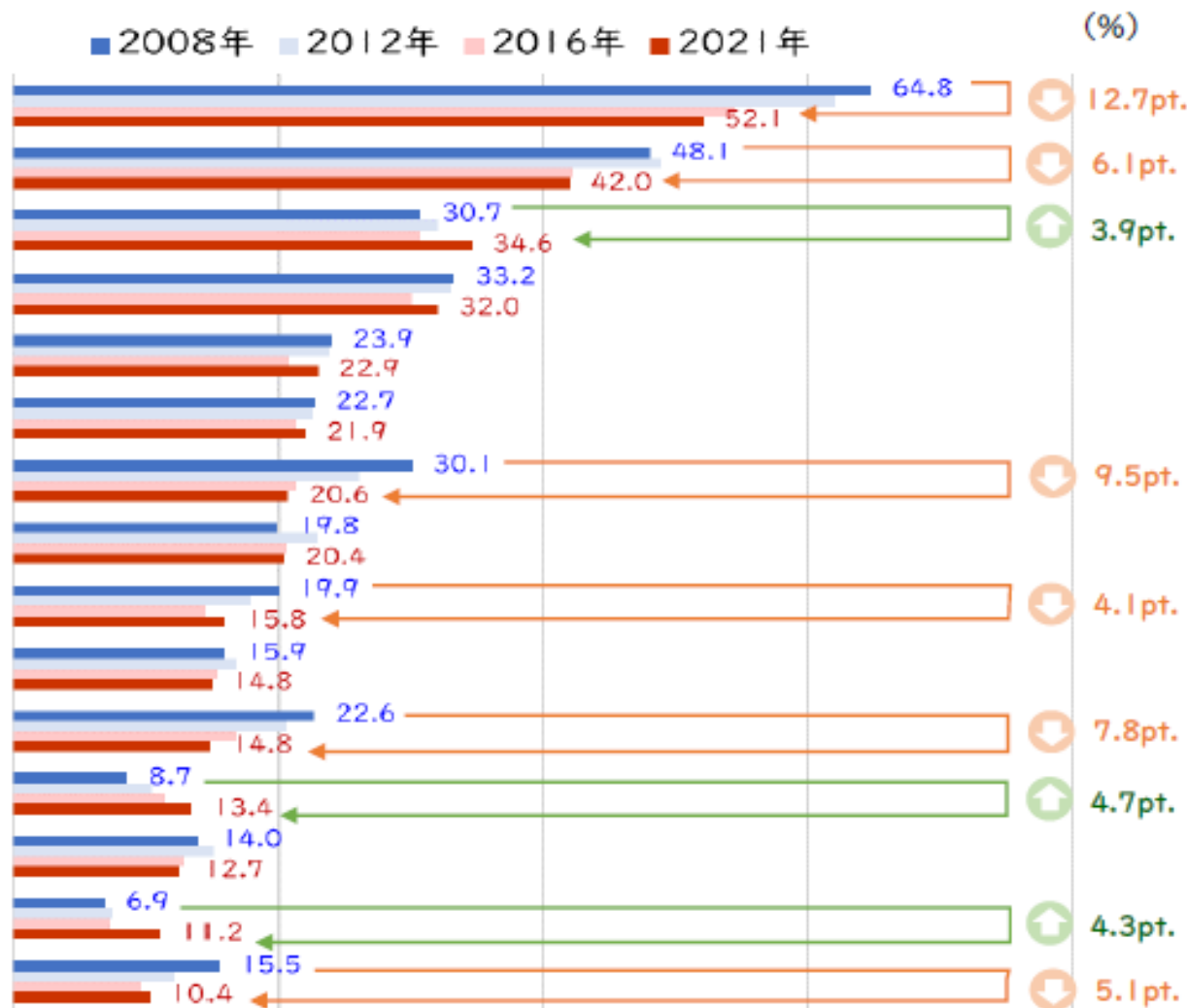
興味のある学問分野がある生徒の割合は減少傾向 (大学進学動向)

減 興味のある学問分野がある
減 入試難易度が自分に合っている
増 入試方式が自分に合っている

減 世間に大学名が知られている

取りたい資格や免許が取得できること
キャンパスライフが楽しそうなこと
先生のすすめ
経済的な負担が少ないこと
増 合格が早く決まる

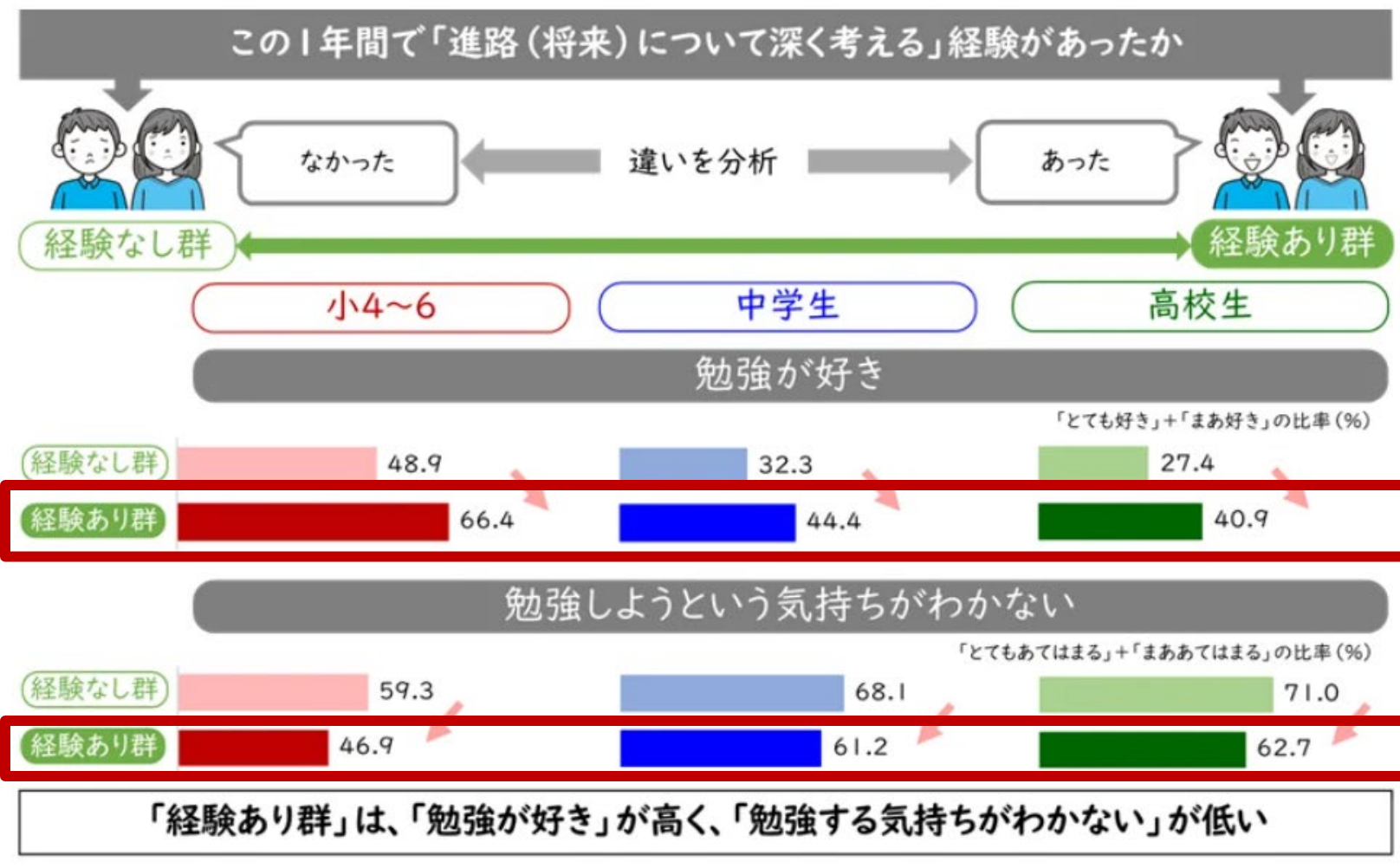
親のすすめ
試験日や試験会場が多く、受験しやすいこと
都会にあること



※4時点で比較できる項目のみを抜粋、2012年と2016年の数値の表記は省略した

「進路を深く考える」経験は、主体的に学習に取り組む姿勢をつくるのにも有効とする調査もある

◆図表1-1 学習意識（進路を考える経験の有無別）

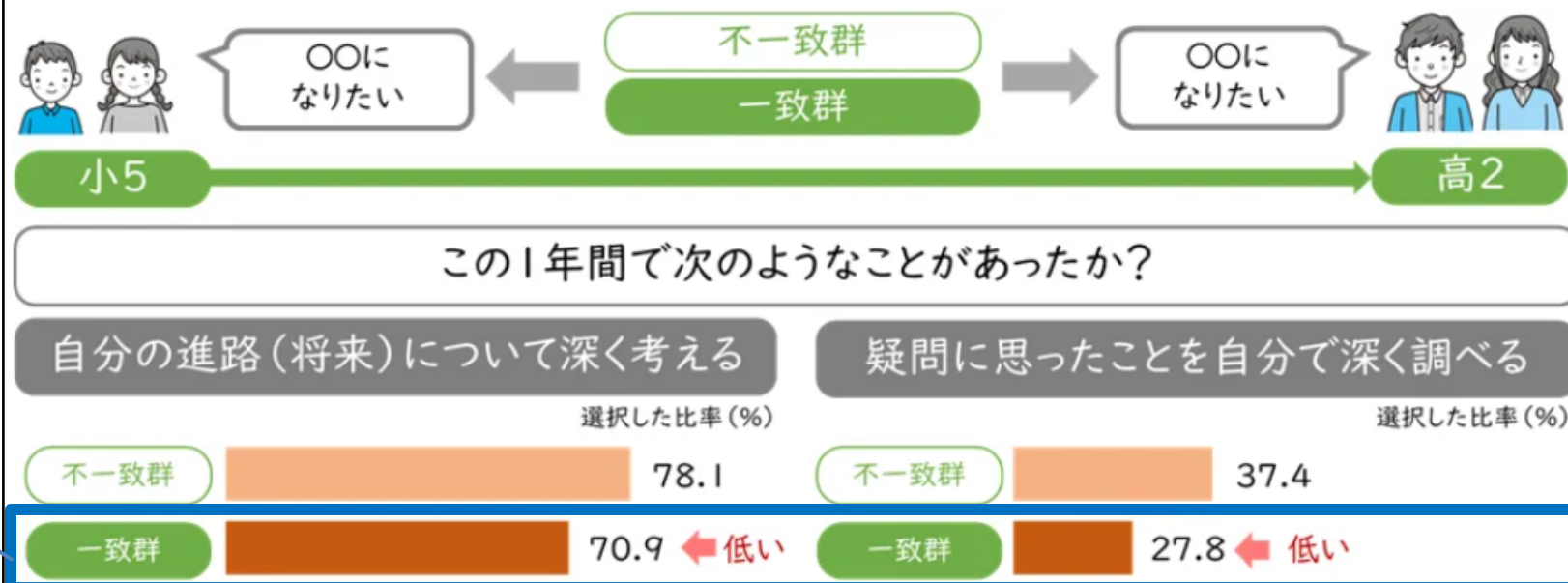


進路を深く考える経験あり

進路を深く考える経験あり

職業希望が一貫している子供は、「進路を深く考える」経験が少ない傾向があり、様々な選択肢に触れ、柔軟に進路を考えることも、これからの時代にはより重要になる

◆図表3-2 進路選択にかかわる行動（なりたい職業の一貫性による違い）



同じ職業を一貫して希望することが重要なわけではない

＊2015～18年調査で小5だった子どもを、2021～24年調査の高2まで追跡。小5と高2のいずれの時点でも職業名の記述があった950名を分析。

＊同じ子どもで小5と高2のなりたい職業の職業名の記述が一致しているか、一致していないかで2群に分けて分析した。各項目の数値は、高2時点のデータ。

他3か国と比較し、日本の高校生は、自分の将来について はっきり目標をもっている割合が64%ともっとも低く、不安を感じている割合はもっとも高い

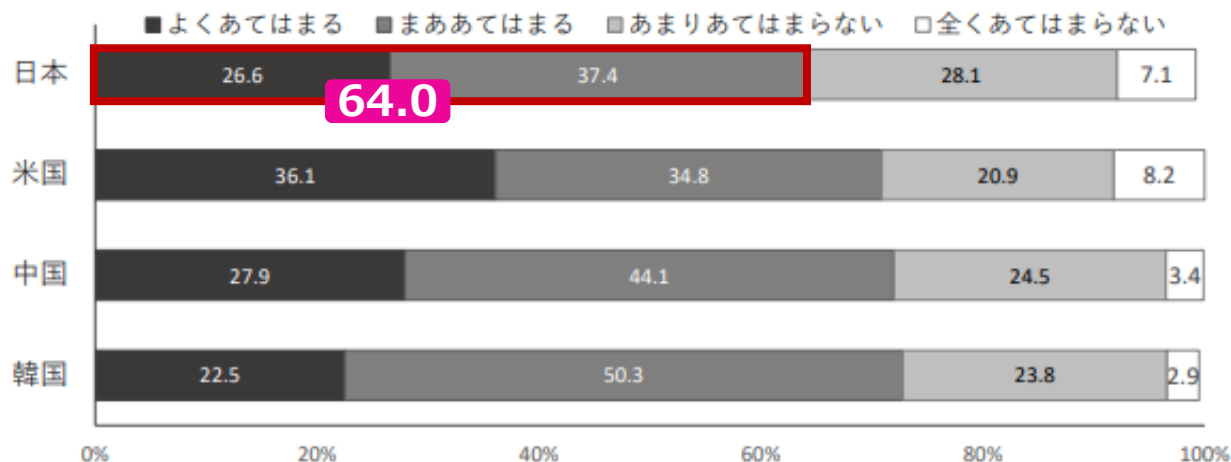


図 4-2 自分の将来について、はっきり目標をもっている

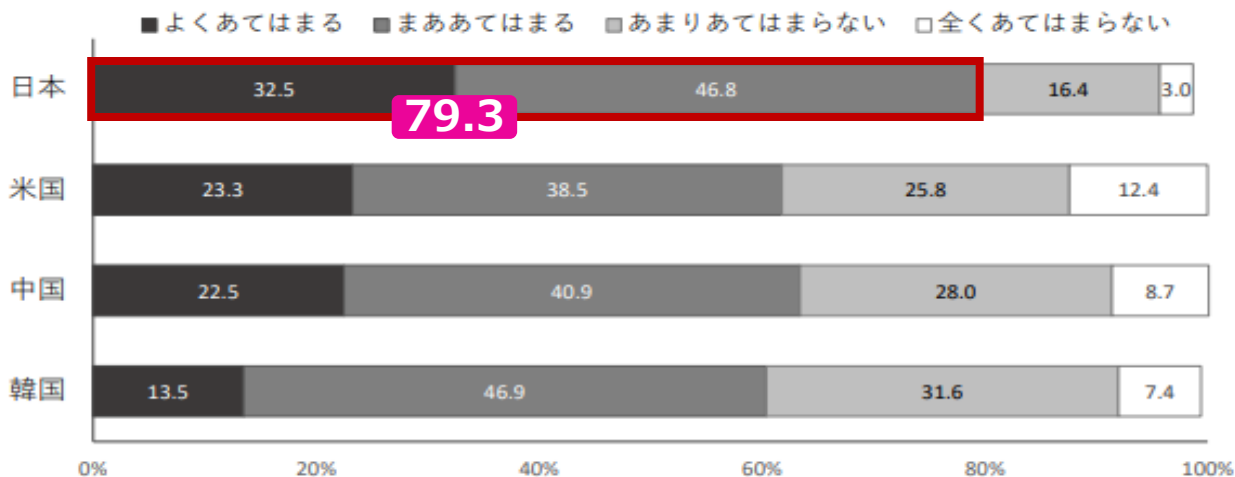


図 4-4 自分の将来に不安を感じている

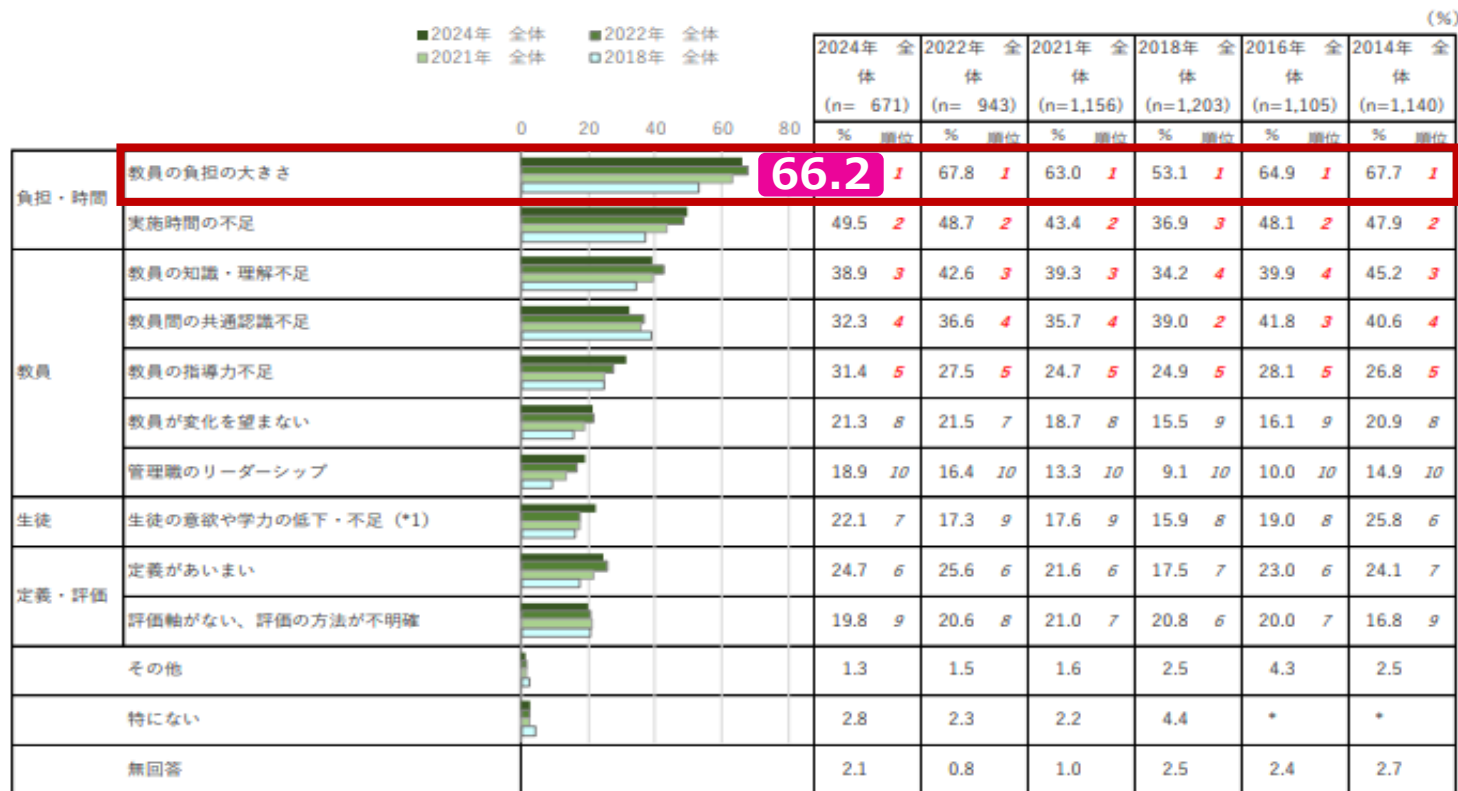
【出所】国立青少年教育振興機構「高校生の進路と職業意識に関する調査報告書 ー日本・米国・中国・韓国の比較ー」（令和5年6月）p. 28-29 より作成

※調査時期：2022年9月～2023年1月 ※調査対象：高校生（日本28校、米国13校、中国24校、韓国34校） ※有効回答者数：日本4,822名、米国1,874名、中国3,772名、韓国1,814名

高校が挙げるキャリア教育の今後の課題として、 「教員の負担の大きさ」が歴代1位（直近調査結果では約66%）

■キャリア教育の今後の課題（全体／複数回答）

貴校においてキャリア教育を進めていくにあたり、今後の課題として感じているものがあれば教えてください。



小計	課題あり・計	95.1	96.8	96.7	93.1	97.6	97.3
	負担・時間・計	79.9	79.7	76.6	66.8	77.6	77.7
	教員・計	64.8	68.6	65.3	60.3	68.7	68.5
	生徒	22.1	17.3	17.6	15.9	19.0	25.8
	定義・評価・計	33.7	36.1	34.3	32.1	36.0	33.4

※カテゴリーごとに降順ソート

※2014～2016年は、進路指導を「非常に難しいと感じている」「やや難しいと感じている」回答者による困難の要因

※「*」は該当の項目なし

※*1：2022年までは「生徒の意欲や学力の低下・欠如」

Q46

【出所】株式会社リクルート「『高校教育改革に関する調査 2024』報告書」（2025年1月9日） p.76 より作成

※調査時期：2024年9月5日～9月20日 ※調査対象：全国的全日制高等学校4,679校 ※集計対象数：671件

他3か国と比較し、日本の高校生は「働くこと」のイメージにおいて「生活のため」が約7割と最も多い

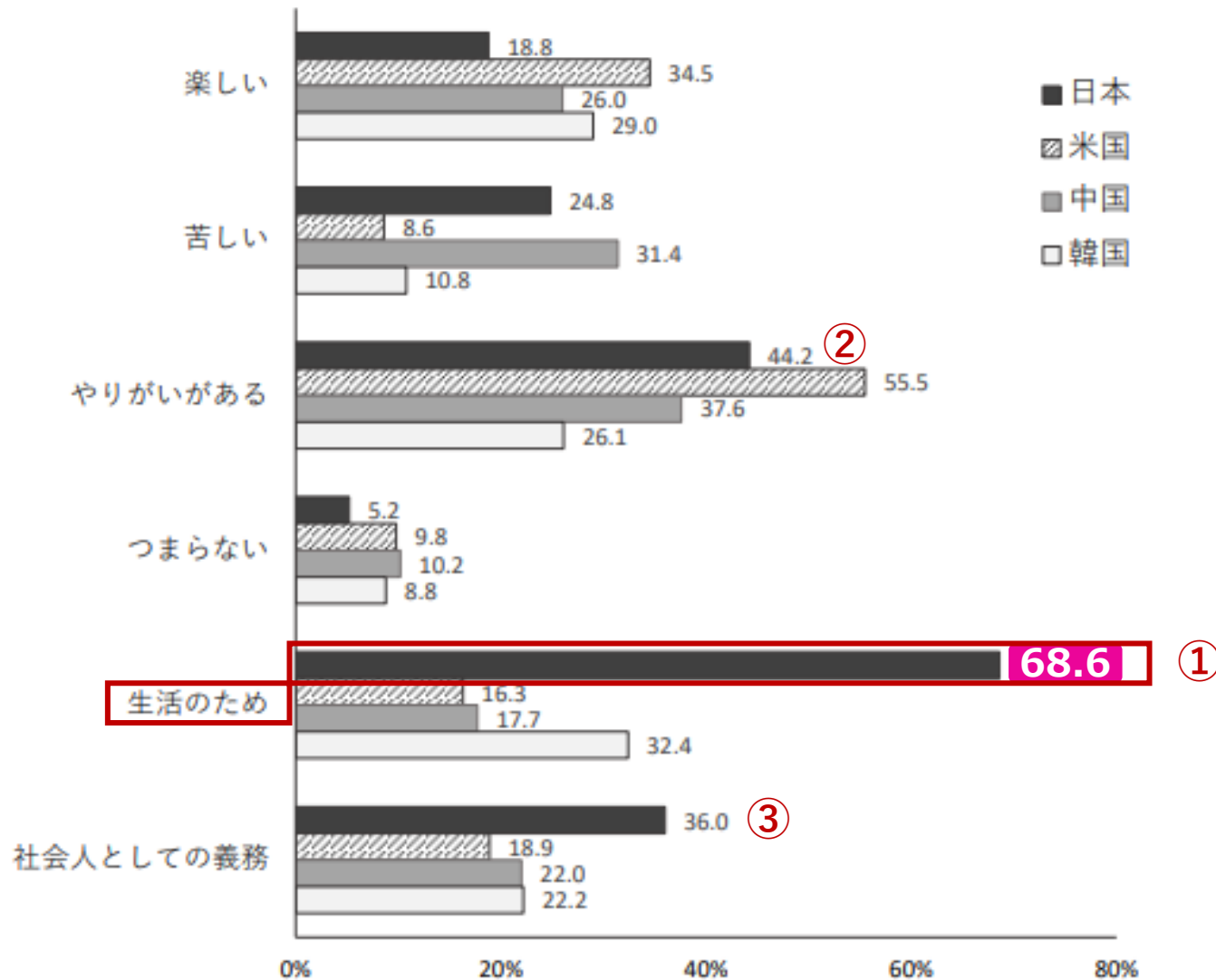


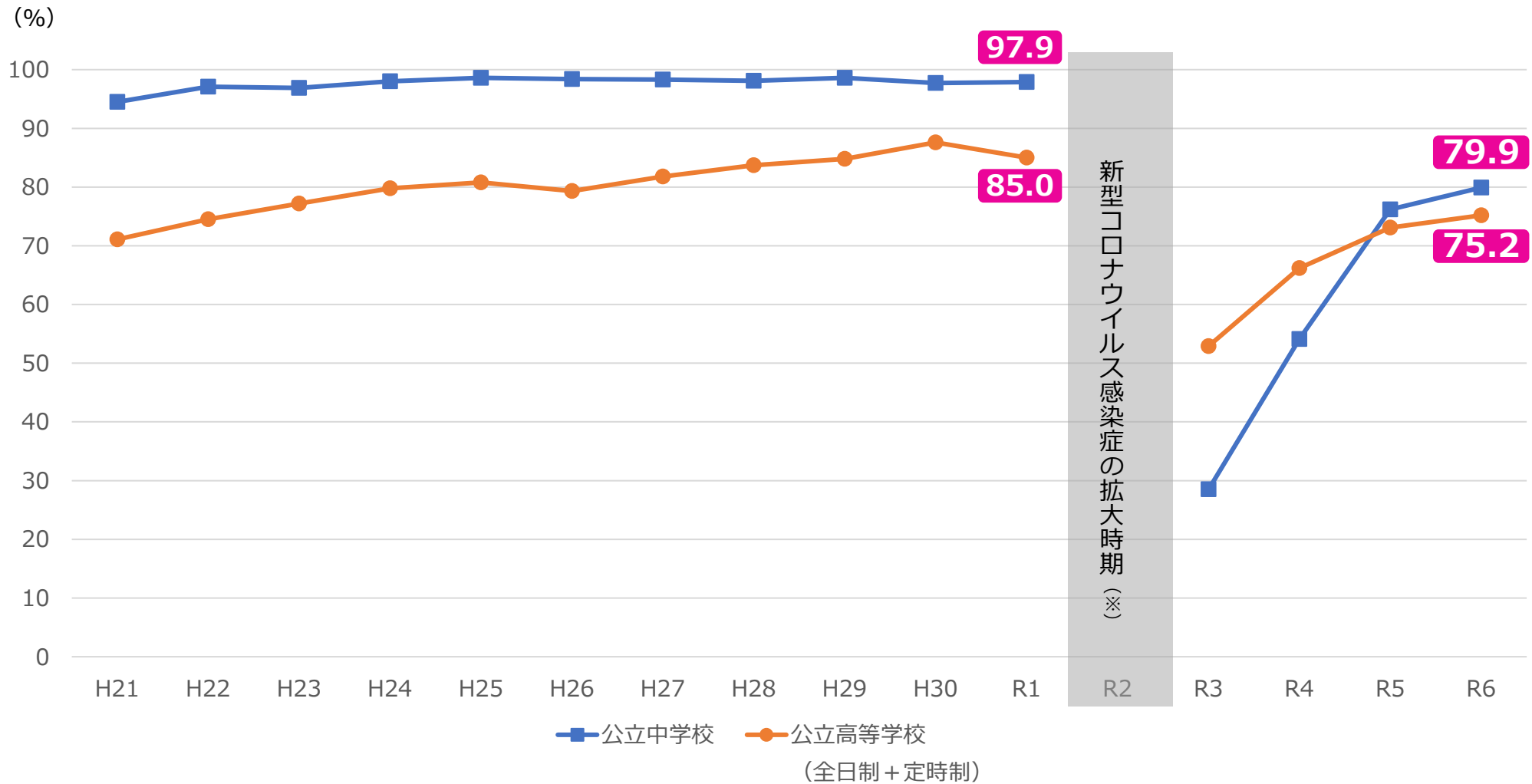
図 3-8 「仕事」「働くこと」のイメージ(「とてもそう思う」と回答した割合)

【出所】国立青少年教育振興機構「高校生の進路と職業意識に関する調査報告書 ー日本・米国・中国・韓国の比較ー」(令和5年6月) p. 19 より作成

※調査時期：2022年9月～2023年1月 ※調査対象：高校生(日本28校、米国13校、中国24校、韓国34校) ※有効回答者数：日本4,822名、米国1,874名、中国3,772名、韓国1,814名 27

職場体験・インターンシップの実施率は回復傾向にあるが、 コロナ禍以前の実施率には未到達

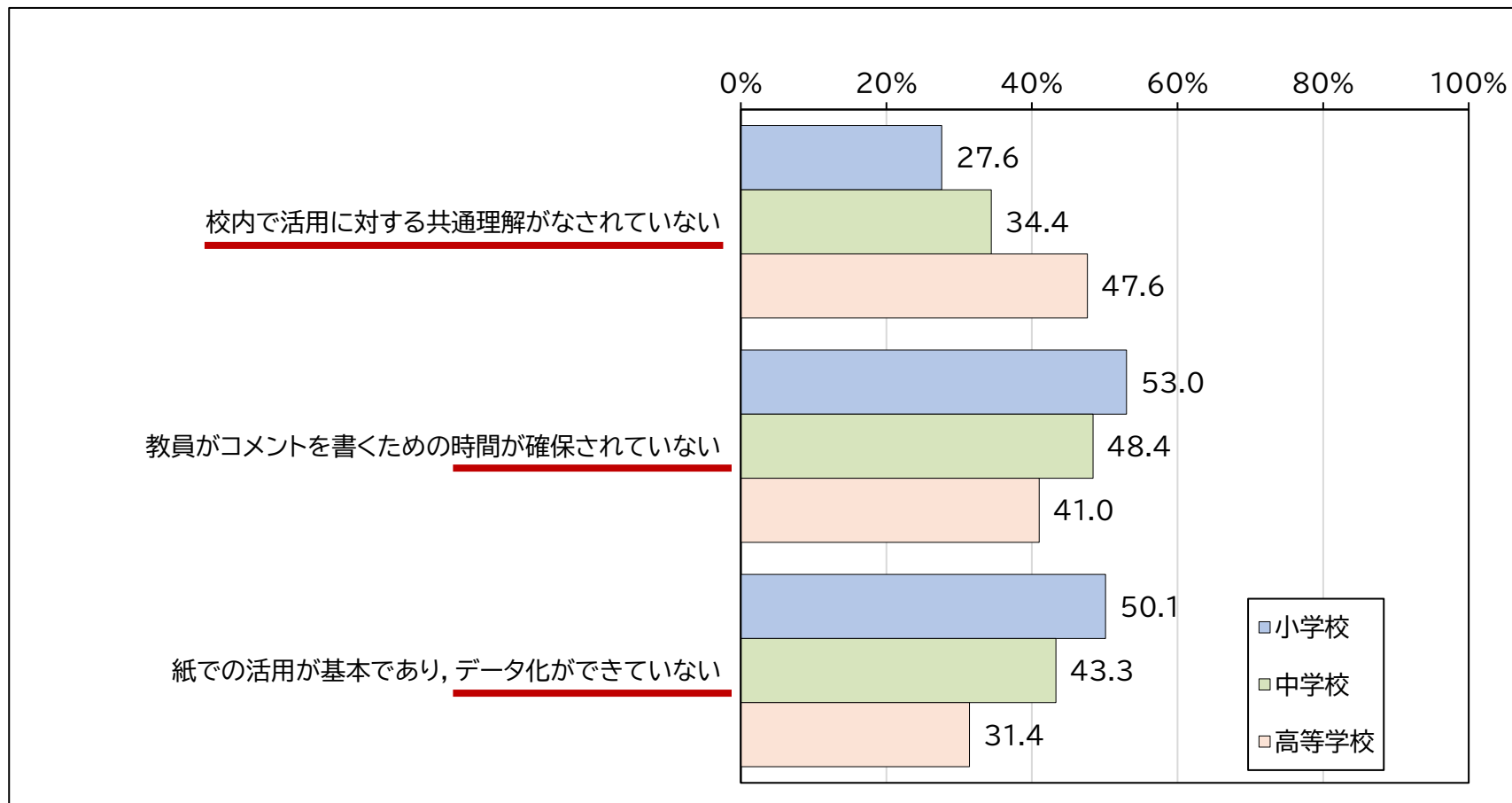
【職場体験・インターンシップを実施している学校の割合】



※ 新型コロナウイルス感染症の拡大により、令和2年度調査は実施していない。

校内でのキャリアパスポートの活用に対する共通理解不足や時間の不足、デジタルへの対応ができていないことに課題感

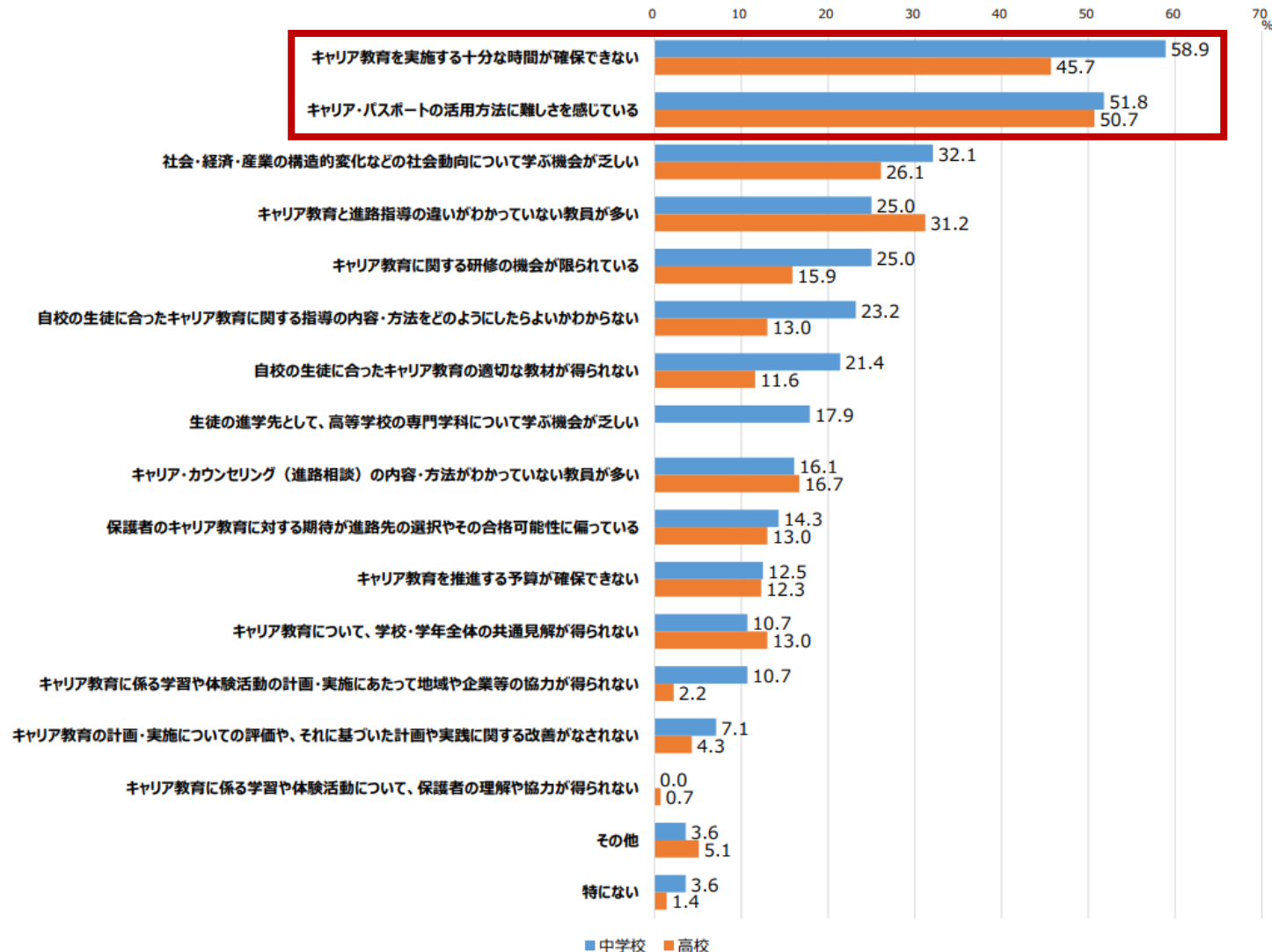
(小中高・担任調査)「キャリア・パスポート」の運用に関する課題認識(一部抜粋)



「学級担任・ホームルーム担任調査」 小学校・中学校:問13、高等学校:問14

キャリア教育の時間の確保や キャリア・パスポートの活用方法の難しさに課題感

図表 64 キャリア教育推進に向けて困っていること



（2）「成長分野」を牽引する科学技術人材・クリエイティブ人材の育成

① 新技術の研究及び社会実装を担う科学技術人材育成のための施策の強化

- 産学での研究開発を通じ**研究者・技術者の育成**、若手研究者を中心とした**新興・融合研究の促進**、博士課程学生・高度専門人材の**処遇向上・活躍促進**、小中高での優れた科学技術人材の育成、研究者の海外派遣や国際共同研究の加速等
- 基盤的経費と多様な競争的研究費の充実・強化（**国立大学法人運営費交付金**と**科研費**の大幅拡充を含む）、**共創拠点の強化** 等

② 産業イノベーションをけん引する研究大学群や国立研究開発法人の機能強化

- 戦略17分野を中心とする産業競争力強化に貢献する、新技術立国の核となる**新たな大学群の形成**に向け、特定分野において特に高い研究力を有し高度な経営を行う大学を認定し、当該分野における研究開発及び社会実装（研究環境の整備を含む）を中長期的に支援する新たな制度の創設を検討
- 17の戦略分野に対応した**大学や国立研究開発法人のプラットフォーム機能の強化**
（例：企業や大学等に対する研究施設・設備、専門人材の知見、セキュアな環境を担保したオフキャンパス機能等の提供、人材育成・流動機能の強化）

③ コンテンツの振興を担う人材の育成や裾野拡大

- マンガ・アニメ・ゲーム等の**コンテンツ分野の人材育成**
- 我が国のコンテンツの多様性を生み出す歴史や伝統、地域性等に根差した舞台芸術や美術等の分野における人材育成や裾野拡大
- 観光や教育等の他分野と連携し文化芸術による地域活性化を担う人材の育成、文化芸術に関する教育の充実

（3）「人材力」の基盤となる環境整備

- 固定的なキャリア観の刷新やアンコンシャスバイアスの払拭に向けたキャリア教育の推進**、女子中高生の理系進路選択支援の強化等
- 次期学習指導要領が目指す主体的・対話的で深い学びの実装をはじめ、AX時代に向けた環境整備
（質の高い**教師の養成・確保**・徹底した伴走支援、**情報活用能力の抜本的な向上**に向けた取組、創造的な**学習環境・教材・研究施設・設備**の計画的な整備）
特定分野に特異な才能のある児童生徒の資質・能力を最大限伸ばす教育の充実に向けた相談支援体制の構築
- 「AI for Science」の推進と、それを支える研究インフラの構築**
- 運動・スポーツを活用した**健康インフラの構築**（運動・スポーツ推進企業に対する支援、関連ビジネス市場の拡大を含めた企業向け運動・スポーツ関連サービスの強化、地域の運動・スポーツ資源の開放による身近な運動・スポーツの場や機会の拡大及び生涯スポーツにつなげるための子供の頃からの運動・スポーツ基盤の構築等）